平成 27 年 7 月 31 日

平成 27、28 年度 水工学委員会構成

【顧問】
小松 利光 （九大）
砂田 憲吾 （山梨大学）
辻本 哲郎 （名大）：水理公式集編集小委員会委員長、河川懇談会座長
山田　 正 （中央大）：タイ洪水対応小委員会委員長、CommonMP コンソーシアム幹事長、水理公式集編集小委員会アドバイザー
中川　 一（京大防災研）IAHR 日本支部、水理公式集編集小委員会主査
寶　　 馨 （京大防災研）：水理公式集編集小委員会アドバイザー＆主査

【専門委員】17 名（定員 17 名）　◎：執行部、○：幹事、△：オブザーバー
朝位 孝二 （山口大）：ホームページ担当
中嶋 規行 （日本工営）
泉　 典洋 （北大）：水理公式集編集小委員会幹事
大石　 哲 （神戸大）
沖　 大幹 （東大）：水理公式集編集小委員会主査
河原 能久 （広島大）
岩見 洋一 （土木研究所）
○風間　 聡 （岐阜大）：水文部会長、27 年度水工学講演会担当
清水 康行 （北大）
○立川 康人 （京大）：CommonMP 開発・運営コンソーシアム委員、土木計画学委員会・流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会幹事長、土木学会論文集編集委員会（編集調整会議）委員、水理公式集編集小委員会幹事
田中　 仁 （東北大）：IAHR 理事、27 年度水工学講演会担当
清水 義彦 （群馬大）：水理公式集編集小委員会幹事長
冨永 晃宏 （名工大）
◎中北 英一 （京大防災研）：委員長、水理公式集編集小委員会主査
堀智晴（京大防災研）：水害対策小委員会委員長
◎○中山　恵介（北見工大）：幹事長
○里深　好文（立命館大）：基礎水理部会長

【海岸工学委員会との交換委員】1 名（定員外）
△武若 聡（筑波大）

【地区委員】33 名　（定員 33 名）（○印：水工学委員会幹事で 20 名以内）
＜北海道　2 名＞

○中津川 誠　（室蘭工大）
　駒井 克昭　（北見工業大学）

＜東北　2 名＞
　松冨 英夫（秋田大）：28 年度水工学に関する夏期研修会担当（案）
　川越 清樹　（福島大）

＜関東　15 名＞
○浅沼　　順　（筑波大）：土木学会論文集 B 部門英文論文編集小委員会
○服部　敦　（国土交通省国土技術政策総合研究所）：河川部会長
○今村 正裕　（電中研主任研究員）
○石平　　博　（山梨大）
○神田　　学　（東京工大）：地球環境水理学小委員会委員長
○宮本 仁志　（芝工大）：環境水理部会長、環境システム委員会、土木学会論文集 B 部門英文論文編集小委員会
　関根 正人　（早稲田大）：土木学会論文集 B 部門英文論文編集小委員会委員長、水理公式集編集小委員会幹事
○田中 規夫　（埼玉大）
　知花 武佳　（東大）：水理公式集編集小委員会幹事
　朝堀 泰明　（国交省水管理・国土保全局）
　天野 光歩　（建設技術研究所）
○川口 智哉　（日水コン）：出版委員会委員
○二瓶 泰雄　（東京理科大）：沿岸環境関連学会連絡協議会委員、水理公式集編集小委員会主査
　安田　陽一（日本大学）
○横山 勝英　（首都大学東京）：沿岸環境関連学会連絡協議会委員

＜中部　3 名＞
　原田 守博　（名城大）
　鈴木 正人　（岐阜工専）
◎○戸田 祐嗣　（名古屋大）：水工学論文集編集小委員会幹事長、水理公式集編集小委員会幹事

＜関西　6 名＞
　大槻 英樹　（ニュージェック）
○入江 政安　（大阪大）：海岸工学委員会対応委員
　竹原 幸生　（近畿大学）
○竹林 洋史　（京大防災研）：水害対策小委員会幹事長、土木学会論文集 B 部門英文論文編集小委員会幹事
　角　　哲也　（京大防災研）：水理公式集編集小委員会主査
　藤田 一郎　（神戸大）：流量観測技術高度化小委員会委員長

＜中国　2 名＞
〇近森 秀高　（岡山大）
〇矢島　　啓　（鳥取大）

＜四国　1 名＞
〇石塚 正秀（香川大）

＜西部　2 名＞
〇矢野真一郎　（九州大）：土木学会論文集 B 部門英文論文編集小委員会、28 年度水工学講演会担当（案）
　杉原　裕司　（九州大）：土木学会論文集 B 部門合同編集小委員会

＜オブザーバー　1 名＞
△堀田哲夫　（建設技研）： ISO 対応特別委員会、ISO/C113 小委員会委員長

2015-2016 水工学委員会

資料２

中北　英一　委員長

幹事会
中山　恵介　幹事長

沿岸環境関連学会連絡協議会
二瓶泰雄　委員
横山勝英　委員

環境工学委員会
(派遣委員無し)

地球環境委員会
神田　学　委員
(地球環境水理学小委員会委員長)

海岸工学委員会
入江政安　委員

環境システム委員会
宮本仁志　委員
(環境水理部会長)

ISO対応特別委員会
堀田哲夫　委員
(ISO/TC113小委員会委員長)

CommonMP開発・運営コンソーシアム
立川康人　委員

水工学委員会・土木計画学委員会
流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会
小池俊雄　座　長
立川康人　幹事長

国土交通省
水管理・国土保全局
都市局
産業界

河川懇談会
辻本哲郎　座長

国土交通省
水管理・国土保全局

ホームページ担当
朝位　孝二　委員

部会

水文部会
風間　聡　部会長

基礎水理部会
里深好文　部会長

環境水理部会
宮本仁志　部会長

河川部会
服部　敦　部会長

常置小委員会

地球環境水理学小委員会
神田　学　委員長

ISO/TC113小委員会
堀田哲夫　委員長

流量観測技術高度化研究小委員会
藤田一郎　委員長

水害対策小委員会
堀　智晴　委員長
竹林洋史　幹事長

編集小委員会

水工学論文集編集小委員会
戸田祐嗣　幹事長

企画研究委員会
今期は海岸工学委員会より選出？

出版委員会
川口智哉　委員兼幹事

水理公式集編集小委員会
辻本哲郎　委員長
清水義彦　幹事長

土木学会論文集編集委員会
（集編集調整会議）
関根正人　委　員
立川康人　委　員

B部門合同編集小委員会
（和文通常号）
立川康人　委員長
横尾善之　幹事長
佐山敬洋　委員(英文兼)
重枝未玲　委　員
杉原裕司　委　員
内田龍彦　委　員

B部門英文論文集編集小委員会
関根正人　委員長
竹林洋史　幹　事
浅沼　順　委　員
川地健司　委　員
宮本仁志　委　員
矢野真一郎　委　員
内田龍彦　委　員

2015年度（第51回）水工学に関する夏期研修会について

１．開催日　**2015年8月24日（月）～ 8月25日（火）の2日間**

２．会場　**横浜国立大学　理工学部講義棟　A-201講義室、A-202講義室**

〒240-8501　横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1

３．予約状況：2015年8月21日（金）14:00～17:00（会場準備のため）

2015年8月24日（月）、25日（火）　8:00～17:30

Aコース（河川・水文）会場： A-202講義室（収容人数 300名）

Bコース（海岸・港湾）会場： A-201講義室（収容人数 261名）

休憩室：　A-104（収容人数 118名），事務室：　A-101（収容人数 108名）

４．時間割（90分講義15分休憩，昼食60分）

１限：　9:00～10:30，２限：10:45～12:15

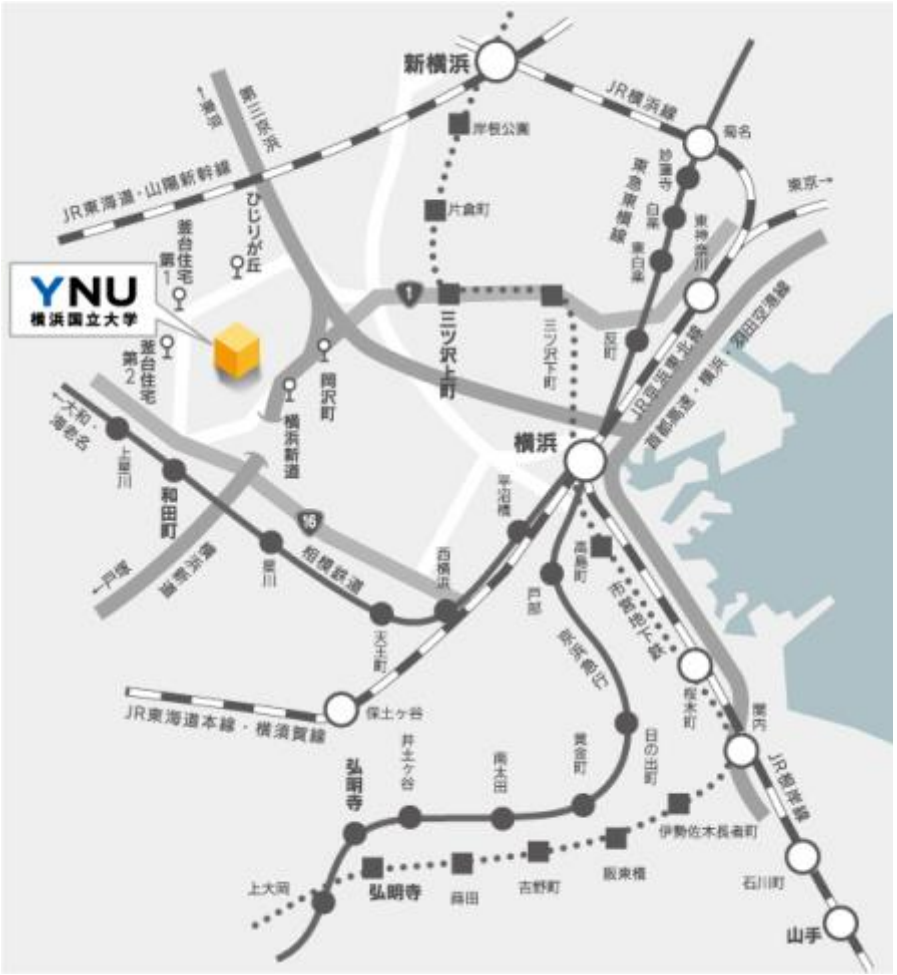
３限：13:15～14:45，４限：15:00～16:30

５．告示　　土木学会誌７月号（海岸工学委員会ページにも内容を掲載）

6月中旬にCECOMにて案内

６．受付締切日　　2015年8月17日（月）　17:00

４．会場へのアクセスとキャンパスマップ： 横浜国立大学



キャンパスの所在地

キャンパスマップ
（図中の理工学部講義棟Aが会場）

5. 交通案内 （http://www.ynu.ac.jp/access/bus.html）

相鉄バス

乗り場	行き先	下車停留所（キャンパス外）	下車停留所（キャンパス内） ※平日のみ >
◎ 10	浜10系統　横浜駅西口	横浜新道（南通用門まで徒歩約3分） 岡沢町（正門まで徒歩約5分）	横浜国立大学正門前、国大中央、国大北、国大西、大学会館前、国大南門 時刻表 バス停の場所
10	浜5系統 交通裁判所経由 横浜西口行	岡沢町（正門まで徒歩約5分）	–
◎ 9	浜11系統釜台住宅第3行 浜11系統釜台経由上星川駅行	釜台住宅第1/釜台住宅第2（西門まで徒歩5分） →【地図】 ひじりが丘（北門まで徒歩2分） →【地図】	–

横浜市営バス

乗り場	行き先	下車停留所（キャンパス外）	下車停留所（キャンパス内） ※平日のみ
11	循環外回り202系統 横浜駅西口行	横浜新道（南通用門まで徒歩約3分） 岡沢町（正門まで徒歩約2分）	–
◎ 14	循環内回り201系統 横浜駅西口（松本経由）行	岡沢町（正門まで徒歩約5分） 横浜新道（南通用門まで徒歩約2分）	横浜国立大学正門前、国大中央、国大北、国大西、大学会館前、国大南門 時刻表 バス停の場所
◎ 14	急行329系統 横浜駅西口行	岡沢町（正門まで徒歩約5分） 横浜新道（南通用門まで徒歩約3分）	横浜国立大学正門前、国大中央、国大北、国大西、大学会館前、国大南門 時刻表 バス停の場所

- 横浜市営地下鉄，相模鉄道からのアクセスも可能ですが，横浜駅からの場合，バスが最も便利になります．
- バス路線はいくつかありますが，学内を経由する便（◎），北門と西門を経由する便（〇）が便利になります．

６．会場の場所

http://www.ynu.ac.jp/access/map_campus.html

７．会場の様子と配置図

Aコース会場　202室（収容人数：300名）

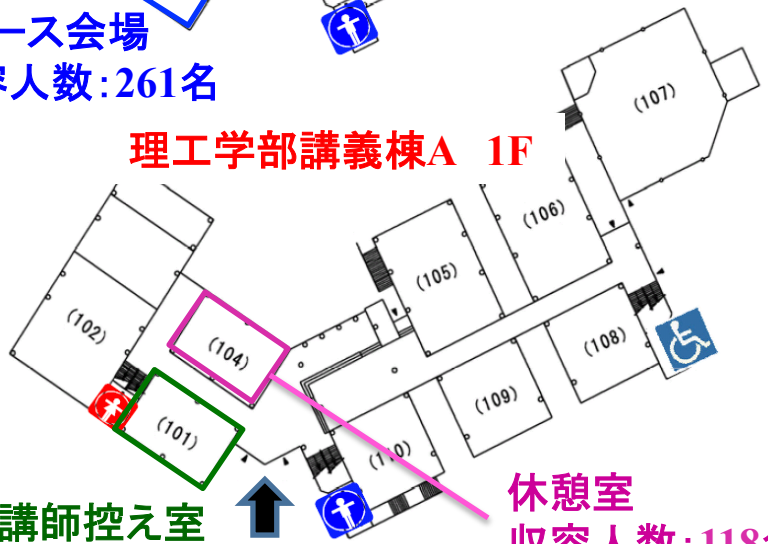
Bコース会場　201室（収容人数：261名）

Aコース会場
収容人数：300名

理工学部講義棟A　2F

Bコース会場
収容人数：261名

理工学部講義棟A　1F



本部 ＆ 講師控え室
収容人数：108名

出入口

休憩室
収容人数：118名

７． 日程およびテーマ（確定）

「沿岸域の防災と減災」

	8月24日（月）		8月25日（火）	
9:00-10:30	宮本先生（横国大）	・東日本大震災での港湾災害と港湾における災害対策の展望と課題	清野先生（九大）	・緩衝帯を用いた沿岸域の減災と生態系保全の両立
10:45-12:15	平野先生（東北大）	・東日本大震災からの復興まちづくりと防潮堤問題	西村先生（東北大）	・沿岸域生態系を活かした震災復興
13:15-14:45	有川先生（中央大）	・防護施設の粘り強さ	眞田様（国交省）	・海岸行政の課題と海岸法の改正
15:00-16:30	横田先生（北大）	・港湾・海岸構造物の維持管理の高度化に向けて	河田先生（関西大）	・これまでとこれからの沿岸防災・減災

８．コースAの状況　　担当：電中研　今村様

「流域管理における防災と環境の対策技術」

	8月24日（月）		8月25日（火）	
9:00-10:30	藤田先生（京大）	・流域土砂管理における問題点と防災と環境の両立	二瓶先生（理科大）	・水防災・水環境に係るモニタリング・モデリング技術の現状と今後の展開
10:45-12:15	牛山先生（静岡大）	・豪雨災害による人的被害	傳田様（土研）	・極端現象が与える流域生態系への影響評価－降水現象の極端化に伴う流況変化等が河川生態系に与える影響に着目して－
13:15-14:45	角先生（京大）	・治水・利水・環境の観点からの流域一貫の総合土砂・流木管理	中村先生（北大）	・河川・氾濫原の自然再生－その技術と考え方
15:00-16:30	宮本先生（芝工大）	・河川水系における樹林化傾向・治水安全性の統合的確率評価	高木先生（岐阜大）	・リスクマネジメントにおける環境と防災の考え方

第51回
水工学に関する夏期研修会

主　　催：　公益社団法人 土木学会（担当：海岸工学委員会，水工学委員会）
後　　援：　公益社団法人 土木学会 関東支部
期　　日：　２０１５年８月２４日(月)～２５日(火)の２日間
　　（Ａ・Ｂコース並行開催）
場　　所：　横浜国立大学 理工学部講義棟A
　　202講義室，201講義室（横浜市保土ケ谷区常盤台79-1）
　　アクセスマップURL
　　http://www.ynu.ac.jp/access/index.html#ind-03

本研修会は土木学会のCPD(継続教育)プログラムとして認定されています.

日程および講義題目・講師　　（注）講義題目には若干の変更がある場合があります

Aコース（河川・水文）　〔行事コードNo.235021〕

《総合テーマ》：「流域管理における防災と環境の対策技術」

■ 8月24日（月）

9:00～10:30	流域土砂管理における問題点と防災と環境の両立 藤田正治　（京都大学・教授）
10:45～12:15	豪雨災害による人的被害 牛山素行　（静岡大学・教授）
13:15～14:45	治水・利水・環境の観点からの流域一貫の総合土砂・流木管理 角　哲也　（京都大学・教授）
15:00～16:30	河川水系における樹林化傾向・治水安全性の統合的確率評価 宮本仁志　（芝浦工業大学・教授）

■ 8月25日（火）

9:00～10:30	水防災・水環境に係るモニタリング・モデリング技術の現状と今後の展開 二瓶泰雄　（東京理科大学・教授）
10:45～12:15	河川・氾濫原の自然再生 ーその技術と考え方 中村太士　（北海道大学・教授）
13:15～14:45	極端現象が与える流域生態系への影響評価 ー降水現象の極端化に伴う流況変化等が河川生態系に与える影響に着目してー 傳田正利　（土木研究所・主任研究員）
15:00～16:30	リスクマネジメントにおける環境と防災の考え方 高木朗義　（岐阜大学・教授）

Bコース（海岸・港湾）　〔行事コードNo.235022〕

《総合テーマ》：「沿岸域の防災と減災」

■ 8月24日（月）

9:00～10:30	東日本大震災での港湾災害と港湾における災害対策の展望と課題 宮本卓次郎　（横浜国立大学・特任教授）
10:45～12:15	東日本大震災からの復興まちづくりと防潮堤問題 平野勝也　（東北大学・准教授）
13:15～14:45	防護施設の粘り強さ 有川太郎　（中央大学・教授）
15:00～16:30	港湾・海岸構造物の維持管理の高度化に向けて 横田　弘　（北海道大学・教授）

■ 8月25日（火）

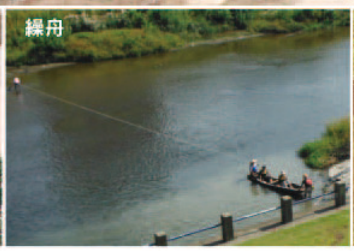
9:00～10:30	緩衝帯を用いた沿岸域の減災と生態系保全の両立 清野聡子　（九州大学・准教授）
10:45～12:15	沿岸域生態系を活かした震災復興 西村　修　（東北大学・教授）
13:15～14:45	海岸行政の課題と海岸法の改正 眞田　仁　（国土交通省・港湾局海岸・防災課長）
15:00～16:30	これまでとこれからの沿岸防災・減災 河田惠昭　（関西大学・教授）

定　　員：　Aコース150名，Bコース150名
受 講 料：　1コースにつき，一般16,000円，学生・院生10,000円（いずれも講義集代を含む）
申込方法：　土木学会ホームページ：http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp
　　もしくは、FAX（学会誌巻末に掲載されている「本部行事参加申込用紙」）をご利用下さい
申込締切日：　2015年8月17日（月）【必着】
　　締め切り日以降は，原則として行事当日会場にて受付致しますが，定員に達している場合がありますので，事前に下記へお問合わせ下さい
問 合 先：　土木学会 研究事業課　TEL：03-3355-3559（担当：松沼）
備　　考：　会場の詳細，講義の変更等の最新情報に関しては，下記ホームページでご確認ください
　　水工学委員会ホームページ　http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/
　　海岸工学委員会ホームページ　http://www.coastal.jp/ja/

Juratic
©FUKUI/play set products
Sautan サウタン　Rapto ラプト　Titchy ティッチー

第20回 水シンポジウム2015 in ふくい

考えよう「水の恵みと災害への備え」
～幸福度日本一の福井から未来への提案～



8/27㊍ シンポジウム
9:30～17:10(9:00開場)
特別講演(日本水フォーラム報告)
基調講演／分科会／パネル展示
AOSSA　8F 福井県県民ホール
(福井市手寄1丁目4-1)

8/28㊎ 現地見学会
9:00(集合)～17:00(解散)
参加費:大人／2,000円(昼食込)
:小学生以下半額
定員:40名(先着順)
水の恵みと歴史の探訪
～奥越前ぐるり一回り～

入場無料

今秋、当シンポジウムの模様を収録した特別番組を放送致します(詳細はホームページにて随時更新)

主催／第20回 水シンポジウム2015 in ふくい実行委員会
(公益社団法人 土木学会 水工学委員会・国土交通省近畿地方整備局・福井県・福井市)

共催／(公財)福井県建設技術公社、(一財)防災研究協会、(一社)近畿建設協会、(一社)日本建設業連合会関西支部、(一社)建設コンサルタンツ協会近畿支部、(一財)日本建設情報総合センター近畿地方センター、(一社)福井県建設業協会、(一社)福井県測量設計業協会、(公社)福井県下水道管路維持協会、福井地質調査業協会

後援／福井新聞社、NHK福井放送局、FBC福井放送、福井テレビ、FM福井

土木学会 CPDプログラム　CPDS認定プログラム　全測連設計 CPD認定プログラム

この印刷物は環境にやさしい植物油インキと古紙配合率100%再生紙を使用しています。

このシンポジウムは、公益財団法人河川財団による河川整備基金と一般財団法人防災研究協会の助成を受けています。

Our Life, with River 河川整備基金

第20回 水シンポジウム 2015 in ふくい

福井県は、日本海側の降雪地帯に位置し、降水量が多く、水の恵みの豊かな地域であり、大野市の御清水や若狭町の瓜割の滝など各地に豊かな湧水が点在しています。

北陸屈指の大河である九頭竜川は、コシヒカリ発祥の地である福井平野を潤し、人々に恵みをもたらしています。

また、一乗谷川沿いに広がる福井市の一乗谷朝倉氏遺跡や奈良時代から続く小浜市のお水送りなど、古くから水と関わりの深い歴史・文化を有しています。

一方、昭和40年の奥越豪雨や平成16年の福井豪雨、平成25年の台風18号等、多くの豪雨災害を経験し、それらを教訓として治水対策を進めてきました。

このような福井県における文化や災害の歴史を踏まえ、今後の水の恵みと災害への備え（治水、水資源の保全、河川環境の整備と保全等）について議論し、幸福を運ぶと言われるコウノトリが飛来する、幸福度日本一の福井から未来への提案として全国に発信します。

8/27㊍ シンポジウム

AOSSA
福井県県民ホール／地域交流プラザ

【午前の部】

9:00　開　場

9:30　開　会（オープニングセレモニー）

10:00　特別講演（日本水フォーラム報告）

竹村 公太郎

「日本文明と水循環」

NPO法人 日本水フォーラム代表理事・事務局長
首都大学東京客員教授・東北大学客員教授　博士（工学）

10:55　基調講演

進士（しんじ）　五十八（いそや）

「福井豪雨から足羽川の景観まちづくり」

福井県里山里海湖研究所所長・県立大学客員教授
東京農業大学名誉教授・元農大学長　農学博士

11:55　昼　休　憩

【午後の部】

13:00　テーマ別分科会（パネルディスカッション形式）

第1分科会　会場：福井県県民ホール

「水防災の新展開 ～福井から始めよう新たな対策～」

コーディネーター　里深　好文（水工学委員会環境水理部会長／立命館大学教授）

パネリスト　柿下　毅（福井地方気象台台長）
荒井　克彦（福井地域地盤防災研究所理事長）
山下　裕己（福井新聞社特別論説委員）
竹島　豊文（蔵作をよくする会副会長）
齊藤　重人（福井県土木部技幹［防災・特定］）

第2分科会　会場：地域交流プラザ

「水辺環境の保全 ～福井の川・水とのつきあい方～」

コーディネーター　福原　輝幸（福井大学教授）

パネリスト　奥村　充司（福井工業高等専門学校准教授）
和田　昭十四（NPOドラゴンリバー交流会副理事長）
田中　謙次（環境文化研究所CRO）
平本　秀信（東郷ふるさとおこし協議会会長）
森久保　司（近畿地方整備局福井河川国道事務所所長）
中村　亮（福井県里山里海湖研究所研究員）

15:10　休　憩／（パネル展示：AOSSA8階展望ロビー等）

15:20　子どもたちによる発表
❶やわらぎ木田保育園　❷福井佼成幼稚園
❸小浜市立口名田小学校

16:00　全体会議（各分科会まとめメッセージ発信）

17:00　次回開催県挨拶

17:10　閉　会

8/28㊎ 現地見学会

9:00～17:00（バス移動：JR福井駅発着）

水の恵みと歴史の探訪 ～奥越前ぐるり一回り～

◆参加費：大人／2,000円（昼食込）小学生以下半額　◆40名（先着順）

◆集合・解散：福井駅東口

9:00　集合・出発　（福井駅東口）
福井市東郷用水、一乗谷朝倉氏遺跡、大野市御清水、恐竜博物館、九頭竜川鳴鹿大堰など

17:00　解　散　（福井駅東口）

シンポジウム及び現地見学会ともに、事前にお申込みが必要です

参加申込方法

オンライン入力
下記ホームページ内、参加申込ページのフォームから入力・送信してください。

申込書ダウンロード
下記ホームページ内、参加申込ページ内の申込書（PDFファイル）をダウンロードし、必要事項を記入後、FAXしてください。

メール
ハガキ
①所属・勤務先、②住所、③氏名（フリガナ）④電話番号、⑤参加を希望される企画［Ⓐシンポジウム Ⓑ現地見学会］を明記してお送りください。

水シンポジウム2015 in ふくい　ホームページ
http://www2.fbc.jp/mizusympo2015_fukui/
水シンポ2015　検索

FAX番号
0776-57-1960

メール送信先
mizushinpo2015@fbc.jp

ハガキ郵送先
〒910－8588 福井市大和田2丁目510
水シンポジウム2015inふくい　運営事務局宛
（FBC販促企画部内）

※ご記入いただいた個人情報はお申し込みのイベントに関連した連絡のみに使用します。

応募締切　平成27年8月14日㊎必着

会場案内図

【AOSSAへのアクセス】

鉄道で　JR北陸本線 福井駅　徒歩 1分
えちぜん鉄道 福井駅 徒歩 1分

車で　北陸自動車道福井I.Cより車で約10分
駐車場は下記をご利用ください。
◎AOSSA地下駐車場　◎福井駅西口地下駐車場

開催内容お問合せ　福井県土木部河川課（事務局）　福井県福井市大手3丁目17番1号　TEL 0776-20-0480　FAX 0776-20-0696　E-mail kasennka@pref.fukui.lg.jp

参加申込お問合せ　水シンポジウム2015inふくい　運営事務局（FBC販促企画部内）　TEL 0776-57-5489　FAX 0776-57-1960　E-mail mizushinpo2015@fbc.jp　福井県福井市大和田2丁目510

●中止、延期の場合は8月25日（火）に上記のホームページで発表します。

ホーム
参加申込
会場へのアクセス
個人情報保護方針

参加お申し込みに関するお問合せ
水シンポジウム2015inふくい
運営事務局(FBC販促企画部内)
福井県福井市大和田2丁目510
TEL：0776-57-5489
FAX：0776-57-1960
E-mail：mizushinpo2015@fbc.jp

開催内容に関するお問合せ
福井県土木部河川課
福井県福井市大手3丁目17番1号
TEL：0776-20-0480
FAX：0776-20-0696
E-mail:kasennka@pref.fukui.lg.jp

昼は水シンポジウム
夜はダムイベント
同日夕方、同施設にて

with Dam Night in Fukui
～福井の夜を「ダム」と
ともに楽しみましょう～
詳しくはコチラ

開催案内

【開催趣旨】

福井県は、日本海側の降雪地帯に位置し、降水量が多く、水の恵みの豊かな地域であり、大野市の御清水や若狭町の瓜割の滝など各地に豊かな湧水 が点在しています。 北陸屈指の大河である九頭竜川は、コシヒカリ発祥の地である福井平野を潤し、人々に恵みをもたらしています。 また、一乗谷川沿いに広がる福井市の一乗谷朝倉氏遺跡や奈良時代から続く小浜市のお水送りなど、古くから水と関わりの深い歴史・文化を有して います。一方、昭和４０年の奥越豪雨や平成１６年の福井豪雨、平成２５年の台風１８号等、多くの豪雨災害を経験し、それらを教訓として治水対策を 進めてきました。 このような福井県における文化や災害の歴史を踏まえ、今後の水の恵みと災害への備え（治水、水資源の保全、河川環境の整備と保全等）について議論し、 幸福を運ぶと言われるコウノトリが飛来する、幸福度日本一の福井から未来への提案として全国に発信します。

水シンポジウム2015ご案内

8月27日（木）9:30～17:10
シンポジウム

会場：AOSSA
福井県県民ホール
地域交流プラザ（第2分科会のみ）

■入場無料
■ 9:00　開場
■ 9:30　開会（オープニングセレモニー）
■10:00　特別講演（日本水フォーラム）
「日本文明と水循環」
NPO法人日本水フォーラム代表理事・事務局長
首都大学東京客員教授・東北大学客員教授・博士（工学）：竹村公太郎
■10:55　基調講演
「福井豪雨から足羽川の景観まちづくり」
福井県里山里海湖研究所所長・県立大客員教授
東京農業大学名誉教授・元農大学長　農学博士：進士（しんじ）　五十八（いそや）

平本　秀信（果郷ふるさとおこし協議会会長）
森久保　司（近畿地方整備局福井河川国道事務所所長）
中村　亮（福井県里山里海湖研究所研究員）

■15:20　子どもたちによる発表
■16:00　全体会議（各分科会まとめメッセージ発信）
■17:00　次回開催県挨拶
■17:10　閉　会
■パネル展示（AOSSA8階展望ロビー等）

8月28日（金）9:00～17:00
現地見学会

水の恵みと歴史の探訪～奥越前ぐるり一回り～

■参加費：2,000円（昼食込）　小学生以下半額
■定員：40名
■集合・解散：福井駅東口
※先着順となりますのでご希望に添えない場合もございます。
■コース
福井市東郷用水、一乗谷朝倉氏遺跡、大野市御清水、恐竜博物館、
九頭竜川鳴鹿大堰など

台風が直撃する恐れがある、または気象等に関する特別警報が発令された等の場合には中止または延期する可能性があります。
※中止・延期の場合は8月25日（火）にこのホームページで発表します。

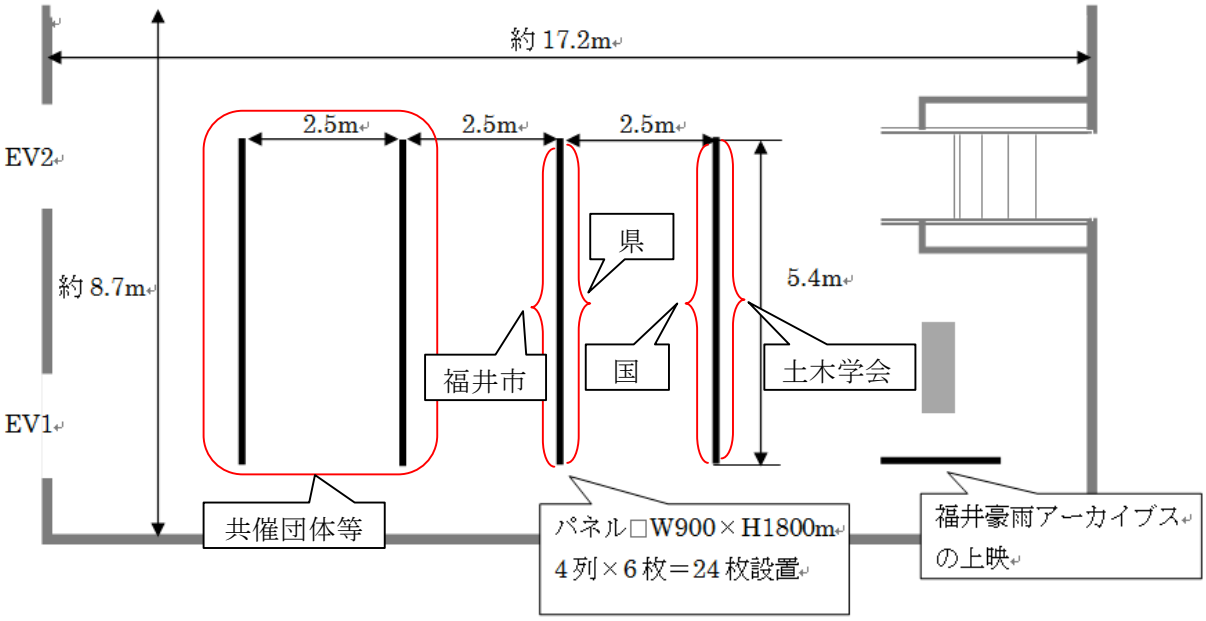
今秋、当シンポジウムの模様を収録した特別番組を放送致します。
（詳細はこのホームページで随時更新予定）

資料

「第２０回水シンポジウム 2015 in ふくい」
パネル展示

１　パネル展示のイメージ（アオッサ８階　展望ロビー）

パネル２４枚（４８面）を設置



２　内容

（1）　県内外の主要災害と防災の事例等の紹介
　　（福井豪雨映像アーカイブスの上映）

⑵　市民団体の活動

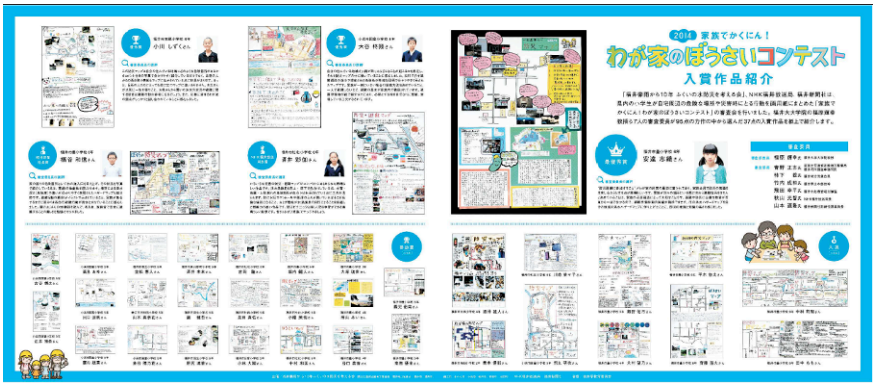
⑶　ぼうさいコンテストの入賞作品の展示（県民ホール・ホワイエ、ロビー）

３　出展者

（1）　土木学会・国・県・市（４団体）

⑵　共催団体

⑶　東郷ふるさとおこし協議会



水シンポジウムでの展示（案）

- 2014年度の水シンポジウムポスター
- 2016年度の水シンポジウム開催地に関するポスター
- 水文部会の活動紹介ポスター
- 基礎水理部会の活動紹介ポスター
- 環境水理部会の活動紹介ポスター
- 河川部会の活動紹介ポスター

2015.7.30　水工学委員会

基礎水理部会の活動報告と活動計画

■iRIC 講習会・日時：平成 27 年 7 月 24 日　（終了）
・場所：札幌市豊平川さけ科学館
・備考：応用生態工学札幌セミナーにて，講習会と講演を開催.

■第 1 回基礎水理部会
・日時：平成 27 年 9 月 17 日（木）
・場所：岡山大学津島キャンパス
・備考：河川砂防技術基準に関する意見交換会も同時開催を検討中

■基礎水理部会見学会
・日時：平成 27 年 10 月（予定）
・場所：北海道の河川を一つの案として検討中

■基礎水理シンポジウム 2015
・日時：平成 27 年 12 月 7 日（月）
・場所：土木学会講堂
・講演テーマ：「流砂」を一つの案として検討中

水文部会報告

- H27年度研究集会
  - 10月10，11日．松江．出雲.
  - 10日勉強会
    - テーマ:「今更きけない確率統計水文学をきく～基礎から応用～」
    - 講師:田中茂信先生，葛葉先生，立川先生他
  - 11日現場見学:
    - 斐伊川尾原ダムー放水路ー出雲結
    - 現地案内:島根大学　宗村広昭先生
  - 他部門からの参加歓迎　風間聡（8月18日）まで

環境水理部会報告

部会長　宮本（芝浦工業大学）

部会の新体制(2015-2016)

部会長：宮本　仁志（芝浦工業大学）

副部会長：矢島　啓（鳥取大学）

幹事：　大石　哲也（（独）土木研究所）

　　田代　喬（名古屋大学）

研究集会（5/18-19）　京都開催

WG：　樹林化WG（宮本）：WS. 河川部会とのJoint.

　　閉鎖性水域研究WG（矢島）：湖沼生態系モデル

　　動的総合土砂管理に関するWG（竹林）

※　現在，部会員名簿を更新中(9月部会まで)

H27研究集会

- 日時：2015年5月18-19日
- 場所：京都大学防災研究所 連携研究棟 大セミナー室
- 内容：5/18（月） 研究発表会（参加人数：91人）
  - 特別講演会（氾濫原環境と治水，利水の調和）
  - 懇親会（ナイトセッション）

  5/19（火） 見学会（参加人数：57人）
  - 桂川下流，嵐山，亀岡
  - 日吉ダム（平成25年度土木学会技術賞（台風18号時のダム操作））

動的総合土砂管理に関するWG　WG主査　竹林洋史（京都大学）

ミッション

流域スケールでの土砂輸送現象は数十年以上の比較 的長時間の現象であり，管理手法も土砂の動態の変化に対応させた動的な管理が必要で ある。本WGでは流砂系の総合土砂管理は時間的に流砂系の総合土砂管理を動的に行うための知見を得るための現地見学会やシンポジウムの開催を行う．

メンバー

現在関連研究を行っている方だけでなく，これから流砂・河床変動の研究を行いたい人にも入っていただく．

活動内容

1）現地見学会

・黒部川の排砂見学会

・那賀川の置土見学会

・天竜川のアユ産卵床見学会

2）シンポジウム開催

・「河床変動解析の活用法とその限界（仮）」

・「流砂系土砂動態の変化と河川樹林化（仮）」

動的総合土砂管理に関するWG　WG主査　竹林洋史（京都大学）

動的総合土砂管理に関するWGの第1回現地見学会につきましては、宮崎県にて予定通り実施されました。見学した耳川水系は、国内で初めて3つダムが連携して通砂を実施する事業を計画しており、また事業内容や環境モニタリング調査においても日本で最も先進的な事例です。ダム通砂のために既存ダムの切り欠き工事を行う山須原ダムと西郷ダムの工事現場、また最下流の大内原ダム貯水池および河川環境の変化が想定される地点などの視察を行い、有意義な議論や意見交換ができました。

1. 日　時：　平成27年6月23日（火）
2. 場　所：　宮崎県日向市、美郷町、諸塚村　耳川流域
3. 参加者：　総数12名（部会委員6名、一般参加 6名）
4. 内　容

(1)山須原ダム（ダム改造工事）
(2)西郷ダム（ダム改造工事）
(3)大内原ダム貯水池（覆砂工事、護岸工事）
(4)鹿瀬地区
(5)アユ産卵床造成場

2015/07/30

H27 第 1 回水工学委員会資料

河川部会　服部敦

河川部会の活動報告および活動計画

◆河川技術に関するシンポジウム

6/10,11 に第 21 回を開催：東京大学弥生講堂にて参加人数 499 名（過去最多）

次回第 22 回を H28/6/2,3，同講堂で開催予定

・活動１）論文募集・査読・論文集の発刊・シンポジウムの運営

・活動２）オーガナイズドセッションの企画・運営

例年：特定テーマ 2 件，ポスターセッション関連テーマ 3 件

会場での発表資料・討議内容を取りまとめて河川部会 HP に掲載

・懸案事項

論文集の電子化出版：アンケートで希望多

→実現に前向きに検討

ポスターセッション：参加者数増加→従来のスペースでは手狭に

→次回は同会場としポスター配置工夫で対処を予定

→その間，予算など条件にあう他会場の有無について検討

「河川技術論文賞」創設（土木学会学術文化事業指定型への寄付金を用いた賞）

著作権（譲渡）の手続きへの対応　など

・ 年間打ち合わせ 3 回を予定（10 月,2 月,4 月），その他メールで意見交換

◆ワーキンググループ活動

・ 河道・堤防・流域減災とアダプテーションの 3WG

・ 活動開始から 4 年経過：部会メンバーの意見を収集し，WG 活動をさらに活性化させる方向で構成も含めて再検討する.

◆河川砂防技術基準に関する意見交換会

・ 主旨：学界の知見を技術基準に反映するため、また研究者の皆様に現場の実情を知ってもらい研究活動に活かしていただくため、国総研と学会の若手メンバーとの意見交換を行う

・ 河道特性調査，洪水流の解析，河床変動の解析を対象

・ 昨年から開始，通算 2 回開催（事前打ち合わせを除く）　部会・シンポ開催日に実施

→今年度も継続（不定流解析に焦点を絞って議論中）

以上

水害対策小委員会活動報告
2015年3月以降の活動

2015年3月：　**2014年度第二回水害対策小委員会開催**　過去最高

河川災害シンポジウムの実施（参加人数：241名）

参考：2014年（早稲田大学）163名

2013年（名城大学）175名

当日配付資料に対して，自然災害研究協議会から15万円の補助.

2015年7月：　**2014年度に実施した3件の水害調査の最終報告書完成**

河川財団の助成を受けた四国害については，河川財団への報告書が最終報告書

兵庫・京都・岐阜水害・土砂災害と広島豪雨災害は新規に最終報告書を取りまとめた

2014年6月26日：　**2015年度第1回水害対策小委員会**

水害調査ガイドラインの一部修正

調査団結成方法の再確認

災害調査時の保険契約の継続など

2015年度の活動予定

2015年7月以降：　**国内・海外の水害調査サポート**

2015年7月-8月：　**水害調査団員候補者名簿の作成**

2015年7月-8月：　**総務省・消防との情報交換，連携確認**

2015年3月14日：**河川災害に関するシンポジウム（東北工業大学）**

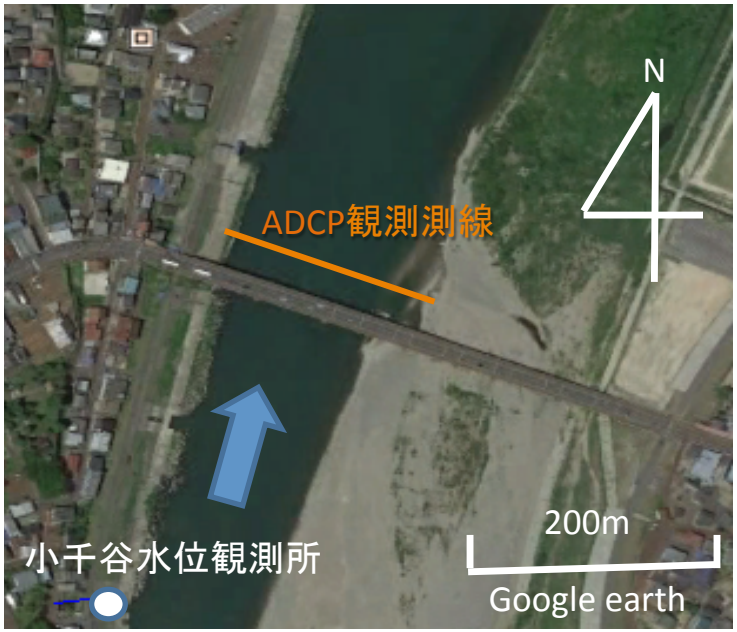
- **調査方法の統一化WG**
- **スィフトレスキューマニュアルの検討**

2015.7.30

流量観測技術高度化小委員会報告

2015年度　流量観測現地ワークショップの報告

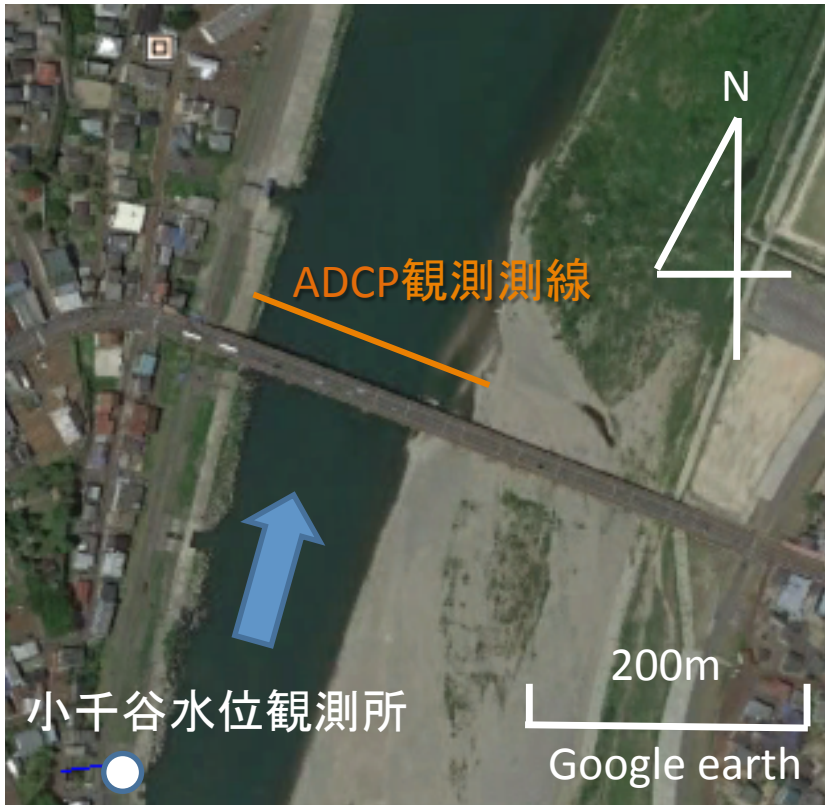
日　時：2015年4月22日（木）～25日（土）
場　所：新潟県信濃川旭橋周辺
参加人数：約120名



・堤防間幅400m
　水面幅200m
・水位計を500mの区間に5台設置

観測機器	参加組織
ADCP	中央大学 富山県立大学 土研（水文環境） ハイドロシステム開発 テイコク 福田水文センター ワイエスワイナノテック 土木研究所ICHARM（計8団体）
画像解析	神戸大学 データダイナミクス 建設技術研究所 日本工営 福田水文センター 三井共同コンサルタント 東京建設コンサルタント ルーチェサーチ 日立国際電気 ブレインズ（計10団体）
電波式流速計	中央大学 富山県立大学 福田水文センター 横河電子機器（計4団体）
見学のみ	計7団体

観測機器と参加組織



・堤防間幅400m
　水面幅200m
・水位計を500mの区間に5台設置

観測機器	参加組織
ADCP	中央大学 富山県立大学 土研（水文環境） ハイドロシステム開発 テイコク 福田水文センター ワイエスワイナノテック 土木研究所ICHARM（計8団体）
画像解析	神戸大学 データダイナミクス 建設技術研究所 日本工営 福田水文センター 三井共同コンサルタント 東京建設コンサルタント ルーチェサーチ 日立国際電気 ブレインズ（計10団体）
電波式流速計	中央大学 富山県立大学 福田水文センター 横河電子機器（計4団体）
見学のみ	計7団体

皆様、参加頂き有難うございました！！

第4回流量観測の高度化に関する勉強会の報告

日 時：2015年7月23日（木） 13:00～18:00
場 所：土木学会 講堂
司会：萬矢敦啓（土木研究所ICHARM）
参加者：71名

時間	題目	発表者
13:00-13:05	開会の挨拶	藤田一郎（神戸大学）
13:05-13:10	今後の水文観測について	藤巻浩之（国土交通省水管理・国土保全局）
13:10-13:20	講演 1：信濃川旭橋における流況の概要	小関博司（土木研究所 ICHARM）
13:20-13:40	講演 2：土研の試み	萬矢敦啓（土木研究所 ICHARM）
13:40-14:00	講演 3：H-ADCP と DIEX 法による自動連続流量モニタリングシステムの実証試験	二瓶泰雄（東京理科大学）
14:00-14:20	講演 4：水面情報を用いた河床高と流量の推定	工藤俊（土木研究所 ICHARM）
14:20-14:40	講演 5：高精度ブレ補正による Aerial STIV の開発	藤田一郎（神戸大学）
14:40-15:00	講演 6：CCTV カメラと遠赤外線カメラを用いた画像処理型流速測定法の実用化	梅田真吾（九州地方整備局）
15:00-15:20	講演 7:画像解析による非接触観測の適用性向上と効率化に向けた撮影・標定技術の開発	小林範之（東京建設コンサルタント）
15:20-15:40	講演 8：KU-STIV 流速解析を行う際の、必要な動画情報の要件について	扇野大輔（（有）データダイナミクス）

15:40-16:00	講演 9:河川監視における遠赤外線カメラと可視カメラ・赤外線カメラの違いについて	増田潤 （FLIR システムズジャパン）
16:00-16:20	講演 10：H-ADCP を用いた感潮域における流量観測	柏田仁（北陸地方整備局代理パシフィックコンサルタンツ株式会社）
16:20-16:40	講演 11：河川流量算出ソフトウエア"DIEX-Flow"の開発と今後の展開について	柏田仁（パシフィックコンサルタンツ株式会社）
16:40-17:00	講演 12：ADCP 曳航観測（リバーボート）の観測可能領域に対する考察	土田宏一（福田水文センター）
17:00-17:20	講演 13：吉野川岩津地点の流況特性と流量観測精度高度化への課題	岡田将治 （高知工業高等専門学校）
17:20-17:30	閉会の挨拶	中尾忠彦 （河川情報センター）

アゲールシンポジウム
（早稲田大学　2015．3．10）

水災害分野における気候変動による影響と適応に関するシンポジウム（国交省とのコラボ）

2015年5月29日　　国立オリンピック青少年金総合センター
主催　文部科学省 気候変動リスク情報創生プログラム/国土交通省 水管理国土保全局
後援　土木学会　水工学委員会/地球環境委員会

～プログラム～

開会挨拶：原 克彦　（文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課 課長）
　　塚原 浩一（国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 課長）

基調講演：住　明正　（国立環境研究所 理事長、創生プログラム プログラムディレクター）
基調講演：池内 幸司（国土交通省 水管理・国土保全局 局長）

パネルディスカッション：
＜コーディネーター＞
・原澤 英夫（国立環境研究所 理事、創生プログラム領域D プログラムオフィサー）
・中北 英一（京都大学防災研究所 副所長、創生プログラム領域D 研究代表、土木学会水工学委員会委員長

＜パネラー＞
【創生プログラム側】
・木下 圭晃（文部科学省 研究開発局 環境エネルギー課 環境科学技術推進官）
・立川 康人（京都大学大学院工学研究科 教授、創生プログラム領域D サブ課題代表）
・森 信人（京都大学防災研究所 准教授、創生プログラム領域D サブ課題代表）
・多々納 裕一（京都大学防災研究所 教授、創生プログラム領域D サブ課題代表）
・高薮 出（気象庁気象研究所 環境・応用気象研究部 部長、創生プログラム領域C 研究代表）
・鈴木 篤（土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター 水災害研究グループ長、
　　創生プログラム領域D サブ課題代表）
【国土交通省側】
・渡邉 泰也（国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画調整室 室長）
・井上 智夫（国土交通省 水管理・国土保全局 海岸室 室長）
・菊池 雅彦（国土交通省 都市局　都市計画課 施設計画調整官）

閉会挨拶：原澤 英夫（国立環境研究所 理事、創生プログラム領域D プログラムオフィサー）

水理公式集編集作業報告

H27第1回　水工学委員会2015.7.30
編集小委員会幹事長　清水義彦

水理公式集編集小委員会の構成

水理公式集編集小委員会委員長
辻本哲郎（名古屋大学）

編集幹事
清水義彦（群馬大学，編集幹事長）
立川康人（京都大学）
関根正人（早稲田大学）
知花武佳（東京大学）
戸田祐嗣（名古屋大学）
後藤仁志（京都大学）
泉　典洋（北海道大学）

各編主査
執筆者

○アドバイザー
山田　正（中央大学）
寶　馨（京都大学）
道奥康治
（水工学委員会前委員長，法政大学）

各編の主査

第1編　水文・水理
中北英一（京都大学），細田尚（京都大学）

第2編　河川・砂防
寶　馨（京都大学），中川　一（京都大学），
藤田光一（国土技術政策総合研究所）

第3編　ダム
角　哲也（京都大学），箱石憲昭（土木研究所）

第4編　水資源・水処理
沖　大幹（東京大学），古米弘明（東京大学），
田中宏明（京都大学）

第5編　海岸・港湾
間瀬　肇（京都大学），後藤仁志（京都大学）

第6編　河川・流域環境
二瓶泰雄（東京理科大学），萱場祐一（土木研究所）

水理公式集構成の主たる内容

第1編　水文・水理　（主査：中北，細田）
　気象・水文現象，降水流出の基礎，開水路，管路，混相流等の概念と方程式系など水文・水理の基礎にあたる内容を新たに追加

第2編　河川・砂防　（主査：寶，中川，藤田（光））
　降雨流出，流量・水位予測と計画論としての扱い，実務面からの取り扱いを重視した洪水流，氾濫流解析，土砂生産・流出予測，河床・河道変動解析に加え，河道形成システムまで言及する．

第3編　ダム　（主査：角，箱石）
　ダムの計画，設計，管理，ダム関連施設の設計（魚道を含む），ダム貯水池の水質水理現象と対策，フラッシュ放流と排砂，置き土を含める

第4編　水資源利用と上下水道　（主査：沖，古米，田中）
　水需要と水資源計画の策定，貯水池操作など水資源に関する項目，都市雨水・汚濁流出，河川と一体した浸水・内水解析，下水道設計の水理と設計，水処理技術

第5編　海岸・港湾　（主査：間瀬，後藤）
波の基礎，波浪，波と流れ，長周期波，沿岸流，海岸構造物等のほか，数値波動水槽，海岸環境を新たに追加

第6編　流域圏環境　（主査：萱場，二瓶）
流域圏における水・物質循環システム，水環境と生態系，流域の汚濁負荷，河川環境，ダム・湖沼（停滞性水域）の水質環境と改善

発刊までのスケジュール

〇2014/3月 4日　水工学委員会にて，編集方針，目次案等の報告
〇3月26日　第1回編集小委員会の開催
（スケジュールの確認と詳細目次および執筆者の確定，原稿依頼の開始など）
〇4月　執筆依頼の準備
〇5月　原稿執筆依頼の開始（5月12日主査に送付開始，主査から執筆者に依頼）

〇8月　第2回編集小委員会開催（8/11,8/20,8/22）
　第1稿の査読，修正方法，第1稿受け取り（9/1)以後の作業などについて

〇第1稿 9月1日締切
　dropboxに格納し，編集委員会全体で参照できるようにする
〇主査による原稿の内容，原稿量，目次の確認，査読の依頼など

〇11月6日　第3回編集小委員会開催
　査読の確認，他内容との整合性，全体構成，分量などの確認
　参考文献，式・図番号の章内での統一，索引リスト（案）

〇11月　第1稿の修正依頼
　（第1稿が遅れているものは第2稿締切までには作業に追いつくこと）

〇2015/2月20日　第2稿締切（主査がdropboxに格納）

〇3月5日　第4回編集小委員会
第2稿の進捗状況と原稿量の確認.
今後の作業
“公式”的な書き方を充実させる.
索引・参考文献の表記，式・図番号の章内での統一.
（図面の版権リストの作成）
（主査・幹事で全体原稿をできるだけ読む）
＊主査は第1稿未提出の執筆者に強くプッシュすることを確認

〇5月末までに第3稿締切→6月末に変更.
現時点（H27第1回水工学委員会）でまだアップロードが完成されていない章あり
（辻本委員長から強く催促中）

〇7月以降　土木学会出版事業課との打ち合わせ（出版社選定）
→8月以降，原稿が整い次第に変更
出版社が決まれば，具体的な原稿編集作業を打ち合わせ

〇第5回編集小委員会（もしくは編集幹事会）
（9/30：土木学会出版委員会への締切期限）
版下原稿での著者校正（原稿，トレース図面など）　初稿，第2稿

〇2016(H28) 3月 発刊

平成27年7月22日

土木学会水工学委員会委員　各位

土 木 学 会 水 工 学 委 員 会 委 員 長 中北 英一
土木学会水工学委員会　河川懇談会座長 辻本 哲郎

平成27年度土木学会水工学委員会河川懇談会（第1回）のご案内

関係者各位には、日頃より水工学委員会へのご協力を頂きありがとうございます。

さて、「土木学会水理委員会河川懇談会」は、河川技術における学術と行政のより有機的・効率的な関係を構築していくための議論や活動をする場として設けられ、意見交換会等を実施して参りました。「平成２７年度　第1回　土木学会水工学委員会河川懇談会」について、下記のとおり、国土交通省の「河川砂防技術研究開発制度」の地域課題分野の研究発表の場を兼ねて開催いたしますのでご関心のある方は奮ってご参加下さい。

記

（１）開催概要

日時：平成27年8月18日（火）10時00分～17時50分
場所：中央合同庁舎3号館1階　水管理・国土保全局A会議室
住所　：東京都千代田区霞が関 2-1-3
プログラム(予定)

1、主催挨拶
2、開催趣旨説明
3、地域課題分野　平成26年度終了課題　成果発表
4、地域課題分野　平成27年度新規採択課題　発表
5、話題提供　（河川懇談会メンバー及び行政関係者から話題提供）
6、全体討論

※懇談会終了後、別会場で懇親会を開催の予定です。（参加費3,000円／人）

（２）参加申し込みについて

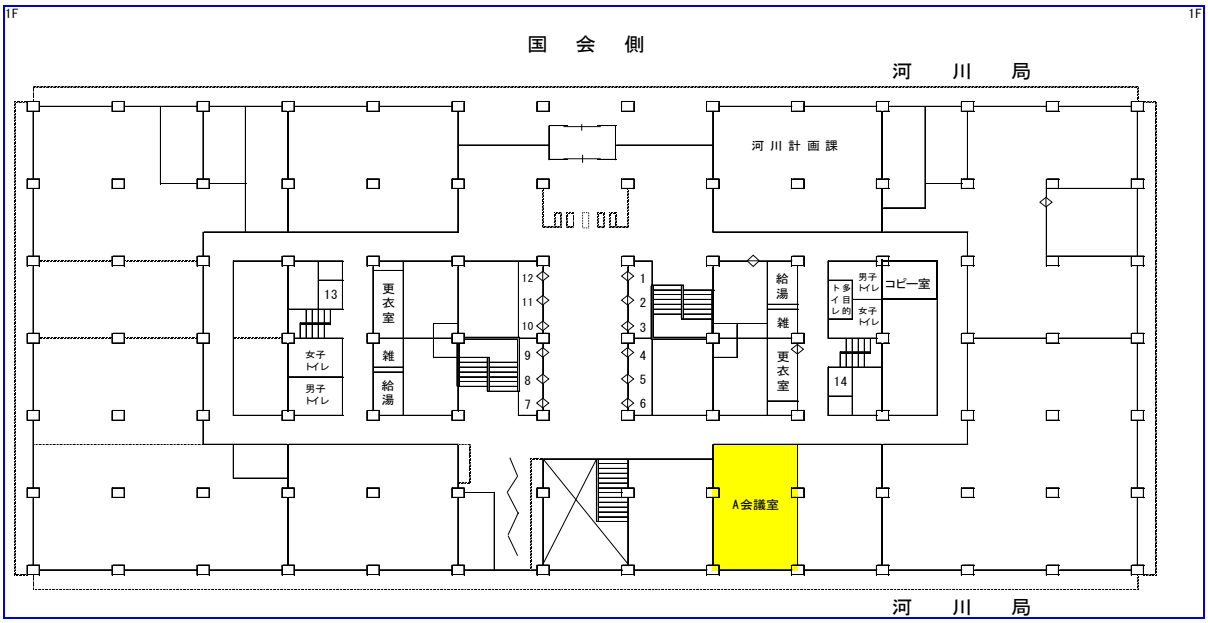
申し込みをされる方は、平成 27 年 7 月 31 日（金）までに、ご氏名、メールアドレス、懇親会の出欠について、国土交通省水管理・国土保全局河川計画課吉田（yoshida-m8911@mlit.go.jp）まで　メールにてご連絡いただきますようお願い申し上げます。

※参加費は無料です。
※会場の都合上、参加人数が多い場合は申し込み先着順とさせていただきます。
※既に、事務局へ参加の旨をご連絡いただいている場合は、改めての申し込みは不要です。

（３）お問い合わせ先（事務局）

国土交通省河川局河川計画課河川情報企画室
企画専門官　目黒嗣樹、河川情報係長　吉田美幸
電話　：03-5253-6446
E-mail：meguro-h25y@mlit.go.jp
　　Yoshida-m8911@mlit.go.jp
公益社団法人 土木学会　研究事業課　松沼
電話　：03-3355-3559
E-mail：matsunuma@jsce.or.jp

「平成 27 年度河川懇談会（第 1 回）」
会場のご案内



開催場所：中央合同庁舎３号館１階　水管理・国土保全局Ａ会議室
問合せ先：国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課河川情報企画室　吉田美幸
TEL（直通）０３－５２５３－８４４６

平成27年度第1回海岸工学委員会報告

6月9日14:00～17:15土木学会2階講堂

■ **委員紹介・議事録確認**

■ **議事前報告**

JSCE-PICEジョイントセミナー

第61回海岸工学講演会報告

H26活動評価結果（Bランク）

■ **2015-16年度委員長選挙**

青木副委員長が委員長に

■ **副委員長の推薦承認，幹事長指名，相談役推挙**

副委員長：岡安小委員長

幹事長：佐々木委員兼幹事

相談役：間瀬元委員長

■ **APACのCouncil，ISC選出方法**

■ **海岸工学論文集第62巻応募論文審査**

組版廃止，5ページ→水工と同じ6ページ

2016年企画セッション（沿岸域小委員会）

■ **海岸工学論文集の将来検討**

■ **第62回（本年度）海岸工学講演会準備状況**

日程：11月11（水）-13（金）

場所：台場，タイム24ビル

■ **第62回講演会前日シンポジウム**

■ **第63回（次年度）海岸工学講演会の開催について**

日程：2016年11月16（水）-18（金）

場所：大阪大学中之島センター

■ **Coastal Engineering Journalについて**

■ **研究小委員会等の活動について**

広報小委員会，沿岸域小委員会，津波小委員会，波動モデル小委員会，減災アセスメント小委員会

■ **夏季研修会（2015,2016）**

■ **その他**

次回　幹事会（9/24　14時）

委員会（11/11　18時）

CommonMP開発・運営コンソーシアム

平成27年度 全国大会（岡山大学）共通セッション
日時：9月16日（水） 9:00-12:00
　第１講目　 9:00-10:20
　第２講目 10:40-12:00

平成27年度　全国大会（岡山大学）研究討論会
日時：9月16日（水） 14:40-16:40
題目：水理水文解析のための汎用プラットフォームによる水工技術の社会実装

流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ

１．開催主旨

流域管理と地域計画の連携方策に関する取組みやその課題等を土木学会会員と行政で共有するとともに、これら課題等を背景として、実施する河川砂防技術研究開発公募の流域計画・流域管理課題分野に対しての理解を深める。

２．開催日時、場所等

日時：平成２７年１２月１５日（火）午後２時から５時（予定）
場所：土木学会講堂（東京）
主催：流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会
共催：水工学委員会、土木計画学委員会

３．プログラム（案）

（1）全体概要
（2）連携方策に向けたとりくみ例（行政のニーズ、大学のシーズ）
（3）河川砂防技術研究開発公募の流域計画・流域管理課題分野について
（4）全体討議

平成 27 年 5 月 19 日

水工学委員会
委員長　道奥 康治　様

公益社団法人 土木学会
調査研究部門
主査理事　三村　衛

平成 26 年度 調査研究委員会の活動度評価の結果
および平成 27 年度調査研究費予算配分について（ご報告）

土木学会調査研究部門会議は、調査研究部門に所属する委員会の平成 26 年度における活動度について、厳正に評価いたしました。

その結果、貴委員会の活動度の評価結果は下記のとおりとなりましたので、ご報告いたします。

なお、ご参考までに平成 21 年度～25 年度の総合評価を併記いたしますとともに、「平成 26 年度実績の委員会情報発信数」を添付いたします。（平成 23 年度実績による活動度評価は評価方法の移行期のため実施しておりません）

記

１．平成 26 年度実績の委員会活動度評価結果および平成 27 年度予算配分額

年度	情報発信数			活動度評価ランク	平成 27 年度配分額
	①行事参加者数	②出版物購読者数	合計（①+②）		
平成 26 年度	3566 人	1653 人	5219 人	A	1127 千円

・ 上記配分額には、調査研究拡充支援金（旧 行事還元金）を含みません。
・ 活動度評価（平成 22 年度までは総合評価）が C ランクとなった委員会および評価結果に異議のある委員会については、調査研究部門会議、研究企画委員会合同会議が活動内容と今後の取組みについてヒアリングを実施します。
・ 全委員会の情報発信数についての一覧表を添付いたしますので、今後の委員会活動の参考になさってください。また、活動度改善に向けて、調査研究部門としても適宜個別にアドバイスさせて頂きますので、何かございましたら問合窓口までお知らせください。また、評価結果に異議のある委員会についても問合窓口までご連絡ください。

２．〔参考〕活動度評価ランクと予算配分の関係

活動度評価ランク	情報発信数	予算配分
A	2,500 人以上	予算総額に応じて 55 万円＋情報発信数に応じた金額。ただしＡランクの情報発信数は 2,500 人として計算※。
B	500 人以上 2,500 人未満	
C	500 人未満	一律 55 万円

※Ａ，Ｂランクの委員会の予算配分方法

予算配分額＝55 万円 ＋ 情報発信数（500 人超分）に比例した金額

＝55 万円 ＋（S－55 万円 ×n）×a ／ b

ここに、S：当該年度の調査研究委員会の総予算額（平成 26 年度調査研究部門予算から新規制度等調査研究費（重点研究課題）ならびに研究企画委員会予算を除いた 2,341 万円）

a：当該委員会の情報発信数（Ａランクは 2,500 人とする）－500 人

b：全委員会の a の合計（平成 24 年度：23,921 人）

n：委員会数（現在 29、研究企画委員会は含まず）

３．〔参考〕平成 21 年度～25 年度の貴委員会の総合評価

年度	総合評価
平成 21 年度	A
平成 22 年度	A
平成 24 年度	A
平成 25 年度	A

４．〔参考〕調査研究委員会の継続・新設 評価要領【抜粋】

（３）評価時期

委員会の新設要望があった場合 および 既存委員会活動の活動度の総合評価が 3 年間連続して C ランクとなった場合に、当該委員会の継続・新設・廃止を検討する。

問合窓口：事務局 研究事業課長 工藤（kudo@jsce.or.jp）

以 上

平成 27 年 7 月 24 日

水工学委員会
委員長　中北 英一　殿

公益社団法人　土木学会
調査研究部門　主査理事　久保田 尚

調査研究拡充支援金の配分について（ご連絡）

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、平成 26 年度の行事関連の収支が確定しましたので、添付資料(1)の「調査研究拡充支援金の部門内での配分について」に従いまして、標記「調査研究拡充支援金」（旧「行事還元金」）の総額を算定し、各委員会への配分額を決定いたしました。

つきましては、平成 27 年度の貴委員会への調査研究費配分額は下記のとおりとなりましたので、ここにお知らせいたします。

今後とも、調査研究活動のさらなる活性化に向けて、ご協力をお願いいたします。

なお、行事関係雑損失※を予算に反映することとなっておりますので、調査研究拡充支援金の計算時に前年度の行事関係雑損失処理に伴う減額措置をとらせていただきました。ご了承のほどお願いいたします。

敬具

※行事関係の未収入金の雑損失処理：

当該年度の収入となるものが種々の理由で年度末までに入金のない場合は、未収入金として貸借対照表の資産に計上しています。事務局では相手先に対して再三再四請求に努めていますが、会計上は、未収入金計上から 2 年を経過し未収のときは、回収の可能性が低いものと判断して雑損失として処理しています（雑損失処理した後の入金は雑収入として計上します）。

記

１．貴委員会の調査研究費配分額　（単位：円）

(1) 調査研究費（既通知分）	1127000
(2) 調査研究拡充支援金	1981000
合　計	3108000

備考：調査研究拡充支援金総額 2,354 万円

（注）調査研究拡充支援金の計算方法（添付資料(1)）

調査研究拡充支援金 ＝ 委員会毎の行事総収入－委員会毎の総直接経費－管理費※※－雑損失

ただし、調査研究拡充支援金は千円未満四捨五入

管理費※※：委員会の行事総収入に評価管理費率を乗じた金額。評価管理費率は、次式により委員会毎に算定する（ただし、30%またはそれ以下とする）。

評価管理費率(%)＝31－[委員会毎の行事総収入(単位：百万円)]×0.2

２．添付資料

(1) 調査研究拡充支援金の部門内での配分について
（調査研究部門会議 平成 24 年 5 月 11 日承認）

(2) 平成 26 年度委員会別行事収支一覧（貴委員会のみ添付）

(3) 平成 26 年度決算における調査研究部門行事関係雑損失処理一覧（貴委員会が該当の場合のみ添付）

本件に関する問合せ先：事務局 研究事業課長　工藤修裕（kudo@jsce.or.jp）

以上

JSCE2015の実施状況に関する部門ごとの自己評価（2015度）

委員会名	水工学委員会

JSCE2015に掲載のアクションプラン

	①アクションプラン		②年度計画（2015年度）
３つの使命と９つの機能	a1-1)先端的学術研究の推進［継続］	・水工学講演会を継続的に開催し、わが国における水工学の最高の学術・技術の情報交換の場を維持する。また、国際セッションを維持し、世界の様々な地域の水問題の解決と水インフラ整備に貢献できるたくましい人材を育成する場とする。 ・水工学に関する夏期研修会を継続的に開催し、最新の学術・技術を提供する情報提供の場を維持する。	・水工学講演会の開催により国内における水工学の最先端の研究を推進する。さらに、国際セッションの開催により、国外における活動についても推進を図る。 ・水工学に関する夏期研修会を開催し、過去のレビューも含め、最新の学術・技術を提供する。
	a1-2)学会編集論文集掲載論文の国際的認知度の向上［継続］	・水工学論文集の国際セッションをより一層充実させる。 ・Journal of JSCEへの投稿増をめざす。	・水工学論文集の国際セッションへの投稿を推進する。 ・Journal of JSCEへの投稿増のための広報活動を活発に行う。
	a1-3)技術基準のグローバルスタンダード化［新規］	・水理公式集改訂版を発刊するとともに、河川砂防技術基準と連動した技術の整理・蓄積を図る。	・水理公式集改訂版を発刊し、河川砂防技術基準と連動した最新技術を含んだ統合的な技術の整理・蓄積を図る。
	a2-1)社会の構造変化に対応した学術領域の再構築による総合化［拡充］	・ダムなどの大型構造物の維持管理・長寿命化について、水工学委員会内でタスクフォースの設置を検討する。	・ダムなどの大型構造物の維持管理・長寿命化について調査・検討するため、水工学委員会内におけるタスクフォースの設置を検討する。
	a2-2)他機関との連携による萌芽的研究の推進［継続］	・土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携に関する議論を深め、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりを実現するための学術的な検討の場を設ける。	・土木計画学委員会と連携するための学術的な検討の場を設け，流域管理と地域計画に関する議論を深め、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりを実現することを目指す。
	a3-1)災害対応技術の体系化［継続］	・水工学委員会内で設置している水害対策小委員会の機能を維持し、横断的かつ迅速な災害調査ネットワークを維持・更新する。	・水工学委員会内で設置している水害対策小委員会の機能を維持、必要に応じて強化し、横断的かつ迅速な災害調査ネットワークを維持・更新する。
	a4-1)計画・制度、社会基盤施設の維持管理など要素技術の確立［継続］	・土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携に関する議論を深め、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりを実現するための学術的な検討の場を設ける。	・土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携に関する議論を深めるため、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりの実現を目指した学術的な検討の場を設ける。
	a4-2)都市空間形成技術の確立［継続］	・土木計画学委員会と連携し、流域管理の観点から地域計画に関する議論を深め、長期的なスパンを考慮して環境変動に対応できる地域づくり・街づくりを実現するための学術的な検討の場を設ける。	・土木計画学委員会と連携し、長期的な流域管理の観点から地域計画に関する議論を深め、環境変動に対応できる地域づくり・街づくりを実現するための学術的な検討の場を設ける。
	a5-1)環境目標・基準の設定［継続］	・長期的な環境変動を考慮し、防災にも配慮した豊かな環境に関する研究を実施する。 ・水理公式集改訂版を発刊することで、新旧の技術の整理・蓄積を図る。	・豊かな環境の維持・管理を目指し、長期的な環境変動を考慮し、防災にも配慮した環境研究を推進する。 ・水理公式集改訂版を発刊することで、新旧の技術の整理・蓄積を図る。
	a5-2)持続型社会の構築に資する技術の研究［継続］	・地球規模での環境変動により大きく変化している降水・洪水の確率予測技術を獲得し、非定常化での水工構造物の設計指針を提示する。	・地球規模での環境変動により大きく変化している降水・洪水の確率予測技術を構築し、非定常化での水工構造物の設計指針を提示する。
	a5-3)地球温暖化緩和・適応技術の確立［継続］	・地球温暖化時の降水・洪水の確率予測技術を獲得し、非定常化での水工構造物の設計指針を提示する。	・地球温暖化時の降水・洪水の確率予測技術を構築し、非定常化での水工構造物の設計指針を提示する。
	b1-1)調査研究部門の委員会再編［継続］	・水工学委員会内に設置されている水害対策小委員会の機能を維持・強化し、横断的かつ迅速な災害調査ネットワークを可能とする。 ・土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携を深め、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりを実現するための学術的な検討の場を設ける。	・水工学委員会内で設置している水害対策小委員会の機能を維持・強化し、横断的かつ迅速な災害調査ネットワークを維持または更新する。 ・土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携に関する議論を深め、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくり実現のため、学術的な検討を進めることが出来る場を設ける。
	d1-1)社会資本整備に関する政策提言［新規］		
	d1-3)適正な社会資本整備プロセスに関する提言・支援［継続］	・「水シンポジウム」による市民・土木学会・自治体・国の情報共有と相互討論の場を維持し、市民の社会インフラに対する知識や意識向上を図るとともに、市民が求める水工技術の把握に努める。	・「水シンポジウム」による市民・土木学会・自治体・国の情報共有と相互討論の場を設け、市民の社会インフラに対する知識や意識向上を図るとともに、市民が求める水工技術の把握に努める。
	d1-4)入札・契約制度の改善に対する提言［継続］		
	d1-6)美しい国づくり、災害に強い街づくり等への助言・支援［新規］	・「水シンポジウム」による市民・土木学会・自治体・国の情報共有と相互討論の場を維持し、市民の水災害に対する知識や意識向上を図るとともに、市民が求める防災技術の把握に努める。	・「水シンポジウム」による市民・土木学会・自治体・国の情報共有と相互討論の場を維持し、市民の水災害に対する知識や意識向上を図るとともに、市民が求める防災技術の把握に努める。

JSCE2015の実施状況に関する部門ごとの自己評価（2015度）

委員会名	水工学委員会

JSCE2015に掲載のアクションプラン

	①アクションプラン		②年度計画（2015年度）
重点課題	（1）震災からの復興と防災・減災のための基盤（ハード・ソフト）構築	・水工学委員会内で設置している水害対策小委員会を利用し、横断的かつ迅速な災害調査ネットワークを維持・更新する。 ・全国で発生する水害に対して、調査団を迅速に派遣し報告会を開催して報を共有する場を、今後とも維持し、水工学講演会のときに同時開催する河川災害シンポジウムを活用して、防災・減災の情報共有、技術開発に寄与する。 ・水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりを実現するため、土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携に関する議論を深める。	・ソフト面において、水工学委員会内で設置している水害対策小委員会を利用し、横断的かつ迅速な災害調査ネットワークを維持・更新する。 ・全国で発生する水害に対して、調査団を迅速に派遣し報告会を開催して報を共有する場を、今後とも維持し、水工学講演会のときに同時開催する河川災害シンポジウムを活用して、防災・減災の情報共有、技術開発に寄与する。 ・ハード対策を提案するため、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりを実現するため、土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携に関する議論を深める。
	（2）福島第一原子力発電所事故の対策のための土木技術の集約		
	（3）インフラの機能維持・改善・新機能付加と次世代負担の低減・分担システムの構築	・地球温暖化時の降水・洪水の確率予測技術を獲得し、非定常化での水工構造物の設計指針を提示する。 ・長寿命化に関して、ダムなどの大型構造物の維持管理について検討するためのタスクフォースの設置を、水工学委員会内にて検討する。	・GCM等を利用した地球温暖化時の降水・洪水の確率予測技術を獲得し、非定常化での水工構造物の設計指針を提示する。水工学講演会を中心として検討成果が公表される。 ・ダムなどの大型構造物の長寿命化を含めた維持管理について検討するためのタスクフォースの設置を検討する。
	（4）地球規模の課題への対応	・地球温暖化時の極端現象の予測とその河川・水循環への影響評価研究を強化する。 ・最大クラスの洪水・渇水による被害想定と適応技術を検討し、水工学講演会を通じて学術的な発信を行う。	・地球温暖化時の極端現象の予測とその河川・水循環への影響評価研究を強化する。水工学講演会や水工学の夏期講習会を通じた対応策の提案を行う。 ・最大クラスの洪水・渇水による被害想定と適応技術を検討し、水工学講演会を通じて学術的な発信を行う。
	（5）大規模イベントとインフラ・空間整備への緊急対応	・豪雨に伴う土砂災害・洪水災害の強大化を予測する技術開発を進め、水工学講演会を通して議論を深める。 ・土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携に関する議論を深め、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりを実現するための学術的な検討の場を設ける。	・豪雨に伴う土砂災害・洪水災害の強大化を予測する技術開発を進め、水工学講演会を通して議論を深める。 ・土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携に関する議論を深め、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりを実現するための学術的な検討の場を設ける。
	（6）次世代技術者の育成と活用	・水工学講演会を継続的に開催し、わが国における水工学の最高の学術・技術の情報交換の場を維持する。また、国際セッションを維持し、世界の様々な地域の水問題の解決と水インフラ整備に貢献できるたくましい人材を育成する場とする。 ・水工学に関する夏期研修会を継続的に開催し、最新の学術・技術を提供する情報提供の場を維持する。	・水工学講演会を継続的に開催し、わが国における水工学の最高の学術・技術の情報交換の場を維持する。また、国際セッションを維持し、世界の様々な地域の水問題の解決と水インフラ整備に貢献できるたくましい人材を育成する場とする。 ・水工学に関する夏期研修会を継続的に開催し、最新の学術・技術を提供する情報提供の場を維持する。
	（7）国際的技術価値移転の推進	・水工学論文集の国際セッションをより一層充実させる。 ・Journal of JSCEへの投稿増をめざす。 ・iRICやCommonMPなど,誰もが容易に利用できる水工シミュレーションソフトウェアのより一層の国際化を図り、わが国初の水工シミュレーションソフトウェアを海外でのインフラ整備に生かす。	・水工学論文集の国際セッションへの投稿を促し、国際セッションをより一層充実させる。 ・Journal of JSCEへの投稿増をめざすた広報活動を実施する。 ・CommonMPやiRICなど,誰もが容易に利用できる水工シミュレーションソフトウェアをわが国から発信し、海外でのインフラ整備に生かす。
	（8）価値ある情報発信と情報収集機能の構築と運用	・「水シンポジウム」を通じた、市民・土木学会・自治体・国の情報共有と相互討論の場を維持する。 ・最新の水工技術に関する情報共有のため、水工学に関する夏季研修会を利用する。	・「水シンポジウム」を通じた、市民・土木学会・自治体・国の情報共有と相互討論の場を維持し、市民が必要とする水防災に関する知識の把握を行う。 ・最新の水工技術に関する情報共有のため、水工学に関する夏季研修会を開催し、技術者への情報発信を実施する。
	（9）他機関・他分野との連携	・地盤工学会や土木学会支部、国土交通省と連携した円滑な水害調査体制を構築する。 ・iRICやCommonMPなど誰もが容易に利用できる水工シミュレーションソフトウェアの充実を図り、社会技術としての水工シミュレーション技術の共有と普及を図る。	・地盤工学会や土木学会支部、国土交通省と連携した円滑な水害調査体制を、水工学委員会内の水害対策小委員会を中心として構築する。 ・CommonMPやiRICなど誰もが容易に利用できる水工シミュレーションソフトウェアの充実を図り、他分野も対象とした社会技術としてのシミュレーション技術の普及を図る。
	（10）学会内活動の有機的結合とその評価	・土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携に関する議論を深め、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりに貢献する。 ・水理公式集改訂版を発刊するとともに、河川砂防技術基準と連動した技術の整理・蓄積を図る。	・土木計画学委員会と連携して流域管理と地域計画の連携に関する議論を深め、水災害の起こりにくい地域づくり・街づくりに貢献する。 ・水理公式集改訂版を発刊するとともに、河川砂防技術基準と連動した技術の整理・蓄積を図る。

3つの使命と9つの機能

①学会の使命【学術・技術の進歩への貢献】

ａ）学術・技術の先端性・統合化
ｂ）学術・技術の事業への展開
ｃ）技術蓄積・移転・流通（技術基準の国際化）

②学会の使命【国内・国際社会に対する責任・活動】

ｄ）公正な立場からの専門的知見の提供・技術支援等の社会貢献
ｅ）国際調和と貢献
ｆ）情報収集・分析・発信機能

③学会の使命【技術者資質と会員満足度の向上】
ｇ）技術者支援（技術力の向上、倫理観の研鑽等）
ｈ）情報取得機会の拡大
ｉ）学会運営の適正化・効率化

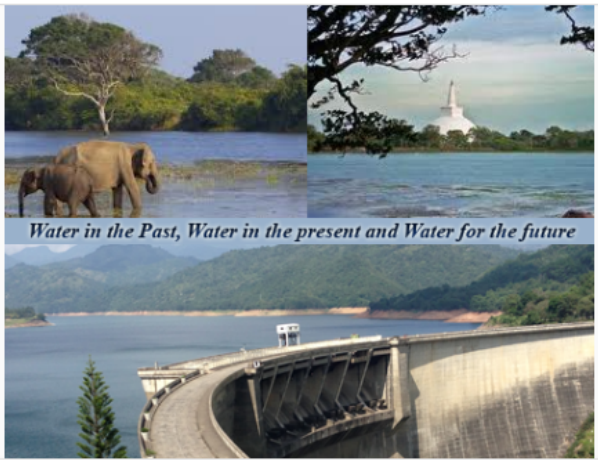
重点課題
５．１　震災からの復興と防災・減災のための基盤（ハード・ソフト）構築
５．２　福島第一原子力発電所の対策のための土木技術の集約
５．３　インフラの機能維持・改善・新機能付加と次世代負担の低減・分担システムの構築
５．４　地球規模課題への対応
５．５　大規模イベントとインフラ・空間整備への緊急対応
５．６　次世代技術者の育成と活用
５．７　国際的技術価値移転の推進
５．８　価値ある情報発信と情報収集機能の構築と運用
５．９　他機関・他分野との連携
５．１０　学会内活動の有機的結合とその評価

Home　議題（報告） APD2015について　APD-IAHR日本委員　田中規夫

20th Congress of the Asia Pacific Division of the International Association for Hydro Environment Engineering & Research

IAHR APD 2016, August - 28, 29, 30, 31

Colombo, Sri Lanka



IAHR APD 2016 Colombo, Sri Lanka

Login to upload Abstracts and Papers

http://www.iahrapd2016.info/home

Important Dates

Call for Abstracts open 1st December 2014

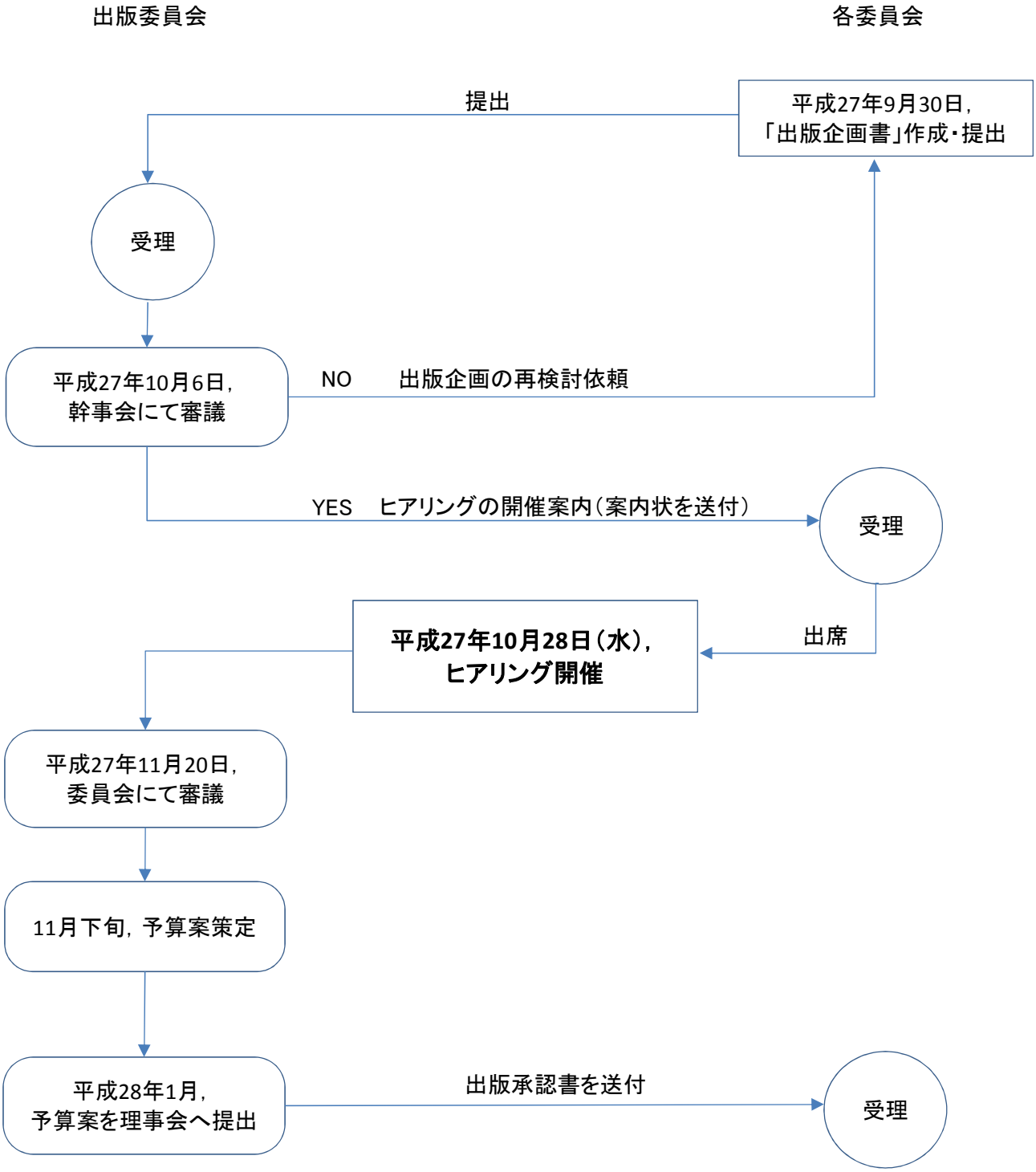
Deadline for Abstract submission 31st August 2015

Notification of acceptance of Abstract 31st September 2015

Deadline for submission of full papers 15th February 2016

Notification of acceptance of full papers 15th March 2016

平成28年度出版企画　今後の手続き（スケジュール）



出版企画書（記入例です）

下記のとおり新規出版物を企画しました。審議をお願いします。

提出日：平成24年9月28日	
委員会名：　〇〇委員会　　委員長：土木　太郎	
小委員会名：　〇〇△△小委員会　　委員長：四谷　二郎	
書名（仮称でも可）	土木技術者倫理問題 －考え方と事例解説Ⅱ－ ※必ず図書の目次案を添付してください。また、できれば執筆予定者リストも添付ください。
出版のねらい	
図書の位置づけ	新規　・　〇既刊図書の続編　・　既刊図書の改訂版
出版の目的・趣旨	本書は、平成17年に発行した『土木技術者倫理問題－考え方と事例解説－』の続編である。 前著発行後、学生向けの事例をより多く盛り込むことや、学生が土木界の一端に触れられるような情報を加えてほしいとの要望があった。そこで、これらの要望に応えるため、前著以上に教育現場での活用や、官公庁や企業での研修会等で活用いただくことを念頭に、学生や比較的若い技術者を主人公とする事例を中心とした第二弾を出版したい。なお、前著では副読本としての活用を考え、Ａ４サイズとしたが、携行も考え、他の土木学会の倫理本と同様にＡ５サイズとする。また、前著との事例の重複はなるべく避け、前著の事例を適宜参照するなどして、前著の販売促進にも努める。（なお、前著は在庫限りとしたい。）
図書の分類	基準・示方書　指針・マニュアル　〇学校教材　特定分野の専門書 辞書（事典）　資料図書　一般向け教養書 その他（　若手実務者向けの教材でもある　）
対象読者 （複数回答可）	〇建設会社　〇コンサルタント　〇電力・ガス会社　〇鉄道会社　〇道路会社 〇中央官庁　〇地方自治体　〇大学・高専等の教員　〇学生　一般の方 その他（　）
本書の活用について （上記対象読者に対し、本書がどのように役立つのか、具体的にご記入ください）	・高等教育機関において、「技術者倫理教育」の教材や参考書として利用でき、学生の「技術者倫理」の理解と実践に役立てることができる。 ・官公庁や企業において、職員や社員の研修に利用でき、業務の適正を確保する体制の構築に役立つ。
出版物の概要	
発行予定日	平成25年7月15日頃
事務局への原稿提出予定	平成25年5月15日頃
希望発行部数	1,500部 ※初版完売のために、編集担当委員会としての希望発行部数の根拠および販売促進の方策を、別紙「販売促進活動計画書」へご記入ください。
希望単価	1,500円
ページ数	約　200 ページ　※カラーページは　ない　・　〇ある（約　20　ページ）
原稿提出形態	〇完全版下原稿　・　その他（　） ※その他の場合の理由：
掲載する写真	ある　（およそ　点）　・　〇ない
掲載する図面	要トレース（およそ　点）　・　〇トレース不要
判型	Ａ４判　・　Ｂ５判　・　〇Ａ５判　・　新書判　・　その他（　）
出版会計からの編集会議の費用補助 （主に旅費）	〇必要とする　・　必要としない ※必要とする場合は、別シートの「予算要求調書」に必要事項をご記入ください。
出版会計からの制作予算を必要とする時期	平成25年4月　頃から
講習会の開催予定	〇ある　（平成25年8月頃）　・　ない
連絡担当委員	氏名：四谷　二郎　所属：新宿大学
	ＴＥＬ　－　－　ＦＡＸ　－　－
	E-mail

◆原稿提出形態は、完全版下を基本としています。完全版下原稿以外での提出を希望される場合は、その理由を必ず付してください。

◆編集会議の費用補助は、承認されない場合があります。また、出版会計から補助した金額は、必ず図書の定価に影響します。あわせてご了承ください。

◆お問合せ先：公益社団法人　土木学会　出版事業課　TEL 03-3355-3444／FAX　03-5379-2769

例えば

- 気候変動影響評価と適応研究の推進

- モデルと観測が融合した水理・水文に関する新計測・モデルバリデーション技術

平成27年度の年間スケジュールについて

日時	場所	活動内容
2015年7月30日（木） 12:00-13:00	土木学会	第1回水工学委員会幹事会
2015年7月30日（木） 13:30-16:30	土木学会	第1回水工学委員会
2015年8月27日（木） 28日（金）	アオッサ 福井県県民ホール、地域交流プラザ	第20回水シンポジウム2015 in ふくい
2015年8月24日（月） 25日（火）	横浜国立大学	水工学に関する夏期研修会
2015年10月5日（月）	土木学会	第1回編集小委員会幹事会
2015年10月6日（火）	土木学会	第2回水工学委員会幹事会・第1回編集小委員会
2015年11月5日（木）	土木学会付近の外部会場	第3回水工学委員会幹事会・第2回編集小委員会
2015年12月10日（木）	土木学会	第2回編集小委員会幹事会
2015年3月14日（月）	東北工業大学	第2回水工学委員会

平成27年度第60回水工学講演会

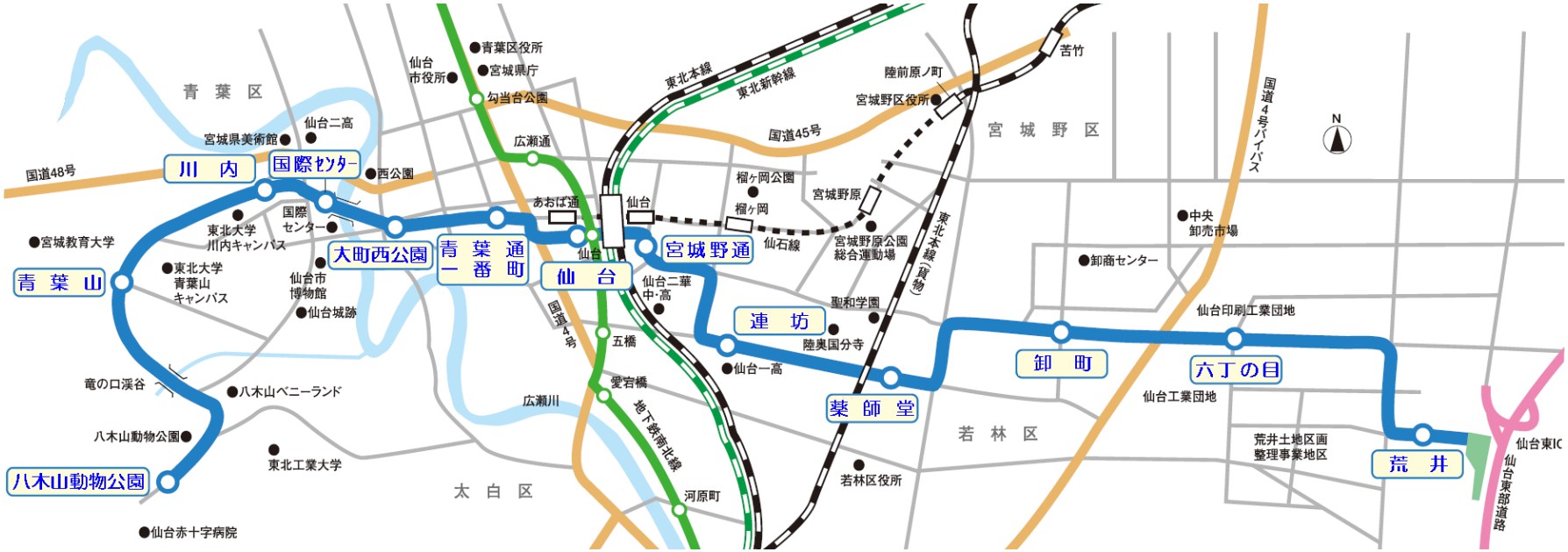
- 場所：東北工業大学八木山キャンパス9号館
  （〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1）
  http://www.tohtech.ac.jp/
- 日時：平成28年3月14日月曜～16日水曜
- 幹事：風間聡，高橋敏彦（東北工大）

交通

地下鉄東西線　八木山動物公園下車　（仙台から21分）

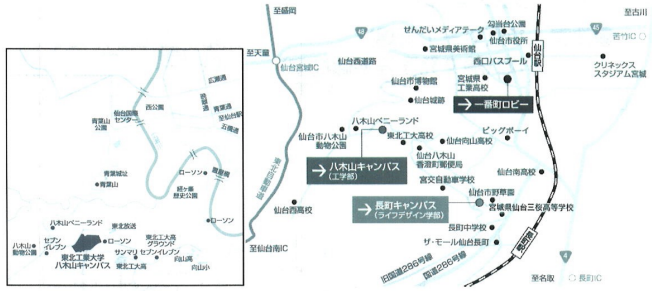
八木山動物公園駅から徒歩8分

学内食堂，駅周辺　コンビニ，ファミレス，食堂など



100席教室8室，230席教室1室，60席2室
（神戸大水工学講演会7会場）

大会アクセス（東北工業大学八木山キャンパス）

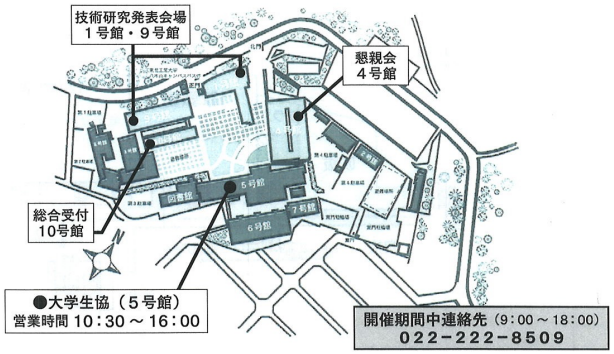


●交通アクセス
JR 東北新幹線・東北本線：仙台駅下車→ JR 仙台駅西口バスプール 11・12 番乗り場より市営バス・宮城交通バスで雲屋橋・動物公園前経由「八木山南団地」「緑ヶ丘三丁目」など八木山方面線に乗車
「東北工大八木山キャンパス」下車。（約 25 分）

●所在地
〒 982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35 番 1 号

※駐車場はご準備しておりますが、数に限りがございますので、ご注意ください。

八木山キャンパス案内



※東北支部発表資料

2階3階を貸切

- 懇親会の会場

　　案1　東北工業大学食堂

　　委員会等から移動がスムーズ

　　~~案2　市内仙台駅周辺~~

　　~~2次会へ便利，新幹線アクセル~~

会開催地一覧

水工学講演会

回	年度	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
38	1993			中央大					
39	1994			中央大					
40	1995			中央大					
41	1996			中央大					
42	1997							鳥取	
43	1998					立命館大			
44	1999		日大						
45	2000			東工大					
46	2001				名工大				
47	2002			早稲田大					
48	2003								熊本大
49	2004			国士舘大					
50	2005					京都大			
51	2006			法政大					
52	2007							広島大	
53	2008			芝浦工大					
54	2009	北大							
55	2010			東大生研					
56	2011						愛媛大		
57	2012				名城大				
58	2013					神戸大			
59	2014			早稲田大					
60	2015		東北工大						
61	2016								九州大

平成28年度　第61回水工学講演会
開催案

- 場所：九州大学伊都キャンパス
  （〒819-0395福岡市西区元岡744）
  http://www.kyushu-u.ac.jp/
- 日程：平成29年3月15日（水）～17日（金）

※九大の後期日程が3/12（日）であり，前の週は全日使用不可のため，本日程のみ可能.

- 幹事：矢野真一郎（九大），杉原裕司（九大）

交通

- 地下鉄空港線（JR筑肥線乗り入れ）にて，福岡空港・博多駅・天神から九大学研都市駅まで約30分．その後，バスで九大工学部まで15分程度．
- 博多駅，天神から直通バスあり．（1時間程度掛かります）

教室

- 大講義室*（222名）：第1会場（開会式，特別講演，アゲール，河川シンポ等の会場）として使用予定

- 工学部第1講義室（254名），同第2（133名），同第3（184名），同第4（111名），同第5*（88名）

- 工学部W2号館ロビー：総合受付

- 委員会用会場，事務局用として2～3部屋*ほど準備可能（88名定員の部屋か50名定員の部屋）

*は同じ建物．第１～４は同じ建物．

その他

- 食堂など:

会場近辺に工学部食堂，カフェ（2），中華レストランあり.（H27.10理学部移転完了に伴い，学食，ファストフード，カフェなどが増設される予定）

ローソン，生協など.

- 懇親会について:

工学部食堂1Fを貸し切りで行う予定.（他の選択肢として，学内イタリアレストランなども可能. ただし，歩いて10分程度掛かります. ）

※2次会は周辺駅前に居酒屋等がありますので，期間中に案内を配布したいと思います.

会開催地一覧

水工学に関する夏期研修会

回	年	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部
1	1965					京都			
2	1966	札幌							
3	1967			東京					
4	1968				名古屋				
5	1969								福岡
6	1970		仙台						
7	1971							広島	
8	1972			東京					
9	1973					大阪			
10	1974						徳島		
11	1975	札幌							
12	1976								福岡
13	1977				長野				
14	1978			東京					
15	1979		仙台						
16	1980					京都			
17	1981	札幌							
18	1982							岡山	
19	1983								福岡
20	1984				岐阜				
21	1985			東京					
22	1986		岩手						
23	1987					神戸			
24	1988	札幌							
25	1989							鳥取	
26	1990								福岡
27	1991				金沢				
28	1992			東京					
29	1993		秋田						
30	1994					大阪			
31	1995	北見							
32	1996							宇部	
33	1997						徳島		
34	1998				名古屋				
35	1999								北九州
36	2000			東京					
37	2001		山形						
38	2002					京都			
39	2003							岡山	
40	2004	釧路							
41	2005						愛媛		
42	2006				岐阜				
43	2007								福岡
44	2008			東京					
45	2009		郡山						
46	2010					神戸			
47	2011							広島	
48	2012	札幌							
49	2013				名古屋				
50	2014								北九州
51	2015			東京					
52	2016		秋田						

会開催地一覧

水シンポジウム

回	年度	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部	担当部会
1	1996							鳥取		
2	1997					兵庫				
3	1998		福島							
4	1999			東京						
5	2000								熊本	
6	2001				富山					
7	2002	札幌								
8	2003						愛媛			
9	2004							広島		
10	2005					大阪				
11	2006		宮城							
12	2007				愛知					
13	2008			千葉						
14	2009				新潟					河川
15	2010								福岡	環境水理
16	2011					京都				基礎水理
17	2012				岐阜					水文
18	2013						高知			河川
19	2014								長崎	環境水理
20	2015				福井					基礎水理
21	2016							山口		水文

Tentative Plan for the 12th International Symposium on Ecohydraulics 2018, Tokyo

Venue: Nihon University (Kanda Surugadai 1-8-14, Chiyoda, Tokyo 101-8308)

- Available space for use: One hall, four rooms and small rooms in the same building
- Tentative Date: 19 (Tue)~23 (Sat) August 2018 (to be discussed)

Tentative schedule of key dates

- Abstract submission deadline: Middle of August 2017
- Abstract acceptance notification: Middle of October 2017
- Submission of full paper* or extended abstract: Middle of December 2017
- Paper acceptance notification: End of January 2018
- End of early bird registration: middle of February 2018
- *To be discussed whether paper submissions are unified as extended abstract only or the authors are given the opportunity to publish in several international journals (will be published several months later).

上記の案で反対はなし

Tentative Plan for the 12th International Symposium on Ecohydraulics 2018, Tokyo

Local Organizing Committee

- Takashi Asaeda (Saitama University) (Chair)
- Norio Tanaka (Saitama University) (Secretary General)
- Shinji Fukuda (Tokyo University of Agriculture and Technology)
- Makoto Nakatsugawa (Muroran Institute of Technology)
- Yoichi Yasuda (Nihon University)
- Ryota Tsubaki (Hiroshima University)
- Yasuharu Watanabe (Kitami Institute of Technology)
- Kazufumi Hayashida (Civil Engineering Research Institute for Cold Region)
- Keiko Muraoka (Public Works Research Institute)

学術文化事業寄付（指定型）に関する報告
「河川技術論文賞」の創設～これまでの検討と今後について～

・ 河川部会での 2 回（2/20, 4/23）の話し合いを行い，名称・趣旨など賞の全体像を概ね固めた.
・ 今後，細部を詰めて河川部会での規約としてとりまとめ，実運用に移す.

◇ 次回の河川シンポからの開始を目指す

◆名称：河川技術論文賞　　受賞数：原則として１論文

◆趣旨：本賞は，河川技術論文集に掲載された論文・報文・総説のうち，河川技術の分野において，広い裾野から研究開発や技術検討が精力的に行われ，河川技術の発展や現場への適用として顕著な貢献をなしえると判断される論文に対して授与されるものとする.（今後，更に推敲する予定）

◆特色：いわゆる学術論文（投稿ジャンル：論文）に加え
現場への適用により顕著な成果を挙げた事例の報告（投稿ジャンル：報告）
既往研究・技術に立脚し，技術の進展に寄与する新たな方向性・考え方を提示した論説（投稿ジャンル：総説）
なども受賞対象として，幅広に技術術的貢献を讃えるものとする.

◆今後，詰めるべき主な事項
・受賞の基準（規約への書きぶり）
広い受賞対象とする反面，ジャンルの異なる投稿原稿を比較し，受賞を１論文に絞り込む基本的考え方が不明確になりがち. 規約にしっかりと定義することが求められる.
・運用規定
- <u>シンポ運営との両立の観点</u>：論文採択まで 2 段階の査読を行っている（概要査読と全文査読）が，それと受賞者審査は両立できるか？
- <u>適正な審査のための体制準備の観点</u>：実施別途審査チームを設ける（河川部会委員外にも査読依頼する案も含む）？
- <u>審査に要する期間確保の観点</u>：いつまでに決定し，発表する？（次回？）　など

→他の委員会・部会の賞を参考として案を作成する予定.

以上

水工学委員会の英語版ホームページ作成について

山口大学大学院
朝位孝二
（水工学委員会HP担当専門委員）

水工学HPの英語版作成の目的

- 世界に対して日本からの水工学分野の情報発信.
- とりわけ水害や水環境に問題を多く有するアジア諸国を対象.
- アジアをはじめ諸外国の優秀な学生，若手研究者や技術者に日本の技術や研究に興味を持ってもらう.
- 水工学分野における日本の国際貢献の一旦を担う.

- 現在の日本語HPの直訳的なサイトとはしない（水工学委員会の活動を発信するのではなく日本の水工学に関する技術や研究を発信する）.

今後の予定

- 少人数でWGを結成し，コンテンツを議論.
- WGメンバーは公募？指名？
- 今年度は準備期間
- 来年度中の開設をめざす.

- 英訳の外注費，サーバーをどうするか.

河川・海岸の土砂水理に関するワークショップ（案）
－既往の土砂運動と地形変動解析の問題点の改善と流砂・漂砂水理学の新展開－

THESIS-2016 in Tokyo 組織委員会(LOC)委員長
福岡　捷二 (中央大学研究開発機構教授)

我が国では，土石流，津波，急流河川の激しい河床変動など，流砂モデルを用いた地形変化解析は様々な分野で重要性を増してきている．近年，CFD が発達し，地形変化解析に用いる流れの解析でも流れの鉛直構造が考慮できるようになってきた．また，移動粒子周辺の微細な乱流構造も解析できるようになってきた．しかし，一方で多くの流砂モデルは断面積分した一次元解析法の枠組みの中で発展してきたため，導出の過程で流れの鉛直構造や流砂の運動形態などは単純化されて，流砂モデルの中に押し込められている．　このため，流砂モデルに求められる役割の拡大のために，流砂モデルを取り巻く研究，技術の発展を踏まえて，従来の流砂モデルの問題点の整理と従来の枠組みにこだわらない新しい流砂モデルの発展が求められている．

二相流モデルは流砂運動を力学的に取り扱う新たな流砂モデル開発の方向の有力なひとつである．**THESIS(Two-pHase modElling for Sediment dynamIcS in geophysical flows)-2016 in Tokyo (**http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~ths2016/, 土木学会共催) 組織委員会(LOC)は，土砂輸送の二相流モデルに関する国際シンポジウムを開催し，さらにその中心的イベントして，基調講演の他に，既往の流砂モデルの問題点と新しい流砂水理学の展開に向けた Workshop を企画している．Workshop では，焦点を絞って新しい方向を見出そうとするものであるが，そのためには準備が必要である．

そこで，THESIS-2016 Workshop に先立ち，表題の通り国内ワークショップを行うことにした．このワークショップは，THESIS-2016 Workshop のプレワークショップとして位置付けている．即ち，上述の国内の流砂水理学の重要な問題点に主眼を置き，二相流モデルだけに限らず，また，従来流砂モデルの問題点だけでなく，現在の新しい解析技術の中で見出された従来モデルの新たな役割や重要性も含め，幅広い様々な視点で議論を展開することを目的する．また，このワークショップを開催することで，土砂水理学の現状の問題点を明確にし，関連分野の活性化を図るとともに THESIS-2016 への参加や論文投稿を呼びかけることもねらいとしている．

この河川・海岸の土砂水理に関するワークショップでは，まず既往の土砂運動と地形変動解析の問題点の整理，今後土砂水理の発展，展望についてと，河川・海岸分野における土砂運動と地形変化解析の具体の問題について話題を提供し，議論する．総合討議では，これらを受けて横断的に議論し，討論することにより，土砂水理学の新たな展開と THESIS-2016 の成功につなげる．

プログラム（案）

日時：2015年10月19日(月) 13:00-18:00
場所：**土木学会講堂 (東京都新宿区四谷一丁目無番地)**
主催：THESIS-2016 in Tokyo**組織委員会**，**共催**：**水工学員会**，**後援**：**海岸工学委員会**

13:00 ～ 13:05　開会の挨拶

泉　典洋(北海道大学) (水工学委員会)

13:05 ～ 13:10　開催趣旨説明

福岡　捷二(中央大学) (組織委員会(LOC)委員長)

(1) 13:10 ～ 14:40 既往の土砂運動と地形変動解析の問題点の整理・改善，今後の土砂水理の発展，展望

司会 中川　一(京都大学)

13:10 ～ 13:55(15分質疑含む)　泉　典洋(北海道大学)
13:55 ～ 14:40(15分質疑含む)　後藤仁志(京都大学)

14:40 ～ 14:50　休憩

(2) 14:50 ～ 16:50 河川・海岸分野における土砂運動と地形変化解析と計算力学に関する具体の話題

14:50 ～ 15:10 (10 分質疑含む)　中川　一 (京都大学)
15:10 ～ 15:30 (10 分質疑含む)　関根正人 (早稲田大学)
15:30 ～ 15:50 (10 分質疑含む)　内田龍彦 (中央大学)

司会 泉　典洋(北海道大学)

15:50 ～ 16:10 (10 分質疑含む)　渡部靖憲 (北海道大学)
16:10 ～ 16:30 (10 分質疑含む)　原田英治 (京都大学)
16:30 ～ 16:50 (10 分質疑含む)　水谷法美(名古屋大学)

司会　後藤仁志(京都大学)

16:50 ～ 17:55 **総合討議**

司会　福岡　捷二(中央大学) (LOC 委員長)

17:55 ～ 18:00 **閉会挨拶**

後藤　仁志 (京都大学) (海岸工学委員会)

THESIS(Two-pHase modElling for Sediment dynamIcS in geophysical flows)-2016 in Tokyo
について

本シンポジウム(THESIS-2016 in Tokyo)においては，土砂輸送を水流中の固体粒子群の移動現象として一般的に捉え，水流と固体粒子のそれぞれの運動と相互作用を取り扱える二相流モデルを題材として，土木(河川，海岸)分野だけでなく，機械工学分野，化学工学分野，紛体工学分野などの二相流モデルに関連する幅広い研究者も交えて，最先端の研究について議論する．

組織委員会
福岡 捷二(委員長，中央大学)，後藤 仁志(京都大学)，泉 典洋(北海道大学)，
梶島 岳夫(大阪大学)，樫山 和男(中央大学)，水山 高久(政策研究大学院大学)，
中川 一(京都大学)，酒井 幹夫(東京大学)，佐藤 慎司(東京大学)，
関根 正人(早稲田大学)，清水 康行(北海道大学)，牛島 省(京都大学)，
内田 龍彦(事務局長，中央大学)

International Scientific Committee:

Balachandar, S. (University of Florida, USA)
Blondeaux, P. (University of Genova, Italy)
Brocchini, M. (Università Politecnica delle Marche, Italy)
Dong, P. (University of Dundee, U.K.)
Elghobashi, S. (University of California Irvine, USA)
Guillou, S. (University of Caen, France)
Hsu, T.J. (University of Delaware, USA)
Izumi, N. (Hokkaido University, Japan)
Jenkins, J. T. (Cornell University, USA)
Meiburg, E. (University of California, USA)
Nguyen, K.D (Laboratory for Hydraulics Saint-Venant, France)
Pham Van Bang, D. (Laboratory for Hydraulics Saint-Venant, France)
Shimizu, Y. (Hokkaido University, Japan)
Simonin, O. (Institut National Polytechnique de Toulouse, France)
Soldati, A. (University of Udine, Italy)
Uhlmann, M. (KIT Karlsruhe, Germany)
Wang, G.Q. (Tsing-Hua University, China)

Local Organizing Committee:

Fukuoka, S. (Chair) (Chuo University)
Gotoh, H. (Kyoto Univerisity)
Izumi, N. (Hokkaido University)
Kajishima, T. (Osaka University)
Kashiyama, K. (Chuo University)
Mizuyama, T. (National Graduate Institute for Policy studies)
Nakagawa, H. (Kyoto University)
Sakai, M.(The University of Tokyo)
Sato, S. (The University of Tokyo)
Sekine, M. (Waseda University)
Shimizu, Y. (Hokkaido University)
Ushijima, S. (Kyoto University)
Uchida, T. (Secretary)(Chuo University)

Venue:

THESIS-2016 will be held on Korakuen Campus of Chuo University. The site is located in the center of Tokyo.

Research and Development Initiative (RDI)
Chuo University
1-13-27 Kasuga, Bunkyo-ku,
Tokyo 112-8551 Japan

Symposium Website:

For updated information on registration, program, map, etc. please visit symposium website:
http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~ths2016/

Further inquires can be made via e-mail at
ths2016@tamacc.chuo-u.ac.jp

Registration fees:

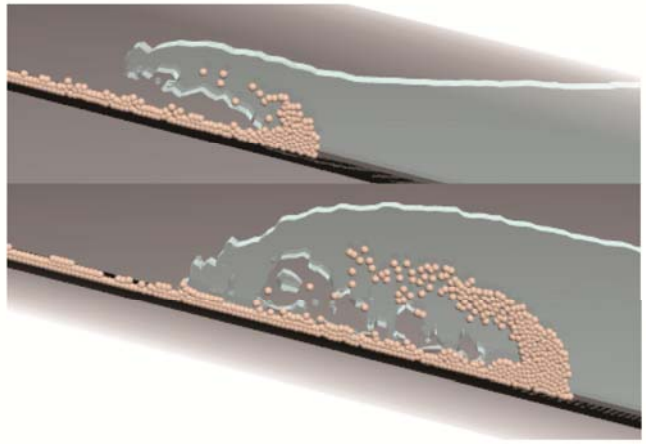
50,000 JPY: Members (JSCE, IAHR, SHF)
65,000 JPY: Normal participants
25,000 JPY: Ph.D. Students

THESIS-2016

Two-pHase modElling for Sediment dynamIcS

The 3rd symposium on two-phase modelling for sediment dynamics in geophysical flows

Tokyo, Japan
September 12-14, 2016



Hosted by RDI(Chuo University)
Co-hosted by JSCE, IAHR, SHF

CHUO UNIVERSITY

The 3rd symposium on two-phase modelling for sediment dynamics in geophysical flows

Invitation:

Considerable attention has been paid to the relevance of sediment transport dynamics to a wide range of geophysical applications: the sediment deposition and re-suspension processes in rivers and estuaries, the morphological evolution of waterways and coastal zones, debris flows, the formation and displacement of turbidity maxima in estuaries, the impacts of sediment drainage, sediment transport and topographical changes due to tsunamis, and the process of breaching in dyke- and dam-break flows.

The method generally regarded as offering the greatest promise involves a two-phase approach that is capable of describing the physical processes of sediment transport more realistically than a single-phase approach.

THESIS symposia (THESIS-2011, THESIS-2013) were successfully held in Chatou, France, to provide a forum for discussing and exchanging experience and knowledge within the international research community, with the goal of developing two-phase approaches to sediment dynamics in geophysical flows.

THESIS-2016 will be held in Tokyo. This symposium will focus on the state-of-the-art of the two-phase approach for sediment dynamics. We look forward to welcoming you to THESIS-2016.

Workshop:

The workshop will focus on both conventional and novel models for sediment transport to enhance their accuracy and application to geophysical flows.

Date: Tuesday, 13 September 2016
Time: 15:20-17:20 in Room 1 (main room) (*tentative)*
Workshop Topics: Conventional and novel sediment transport models, bed load and suspended load, and sediment mixture and armoring

Symposium Theme & Topics:

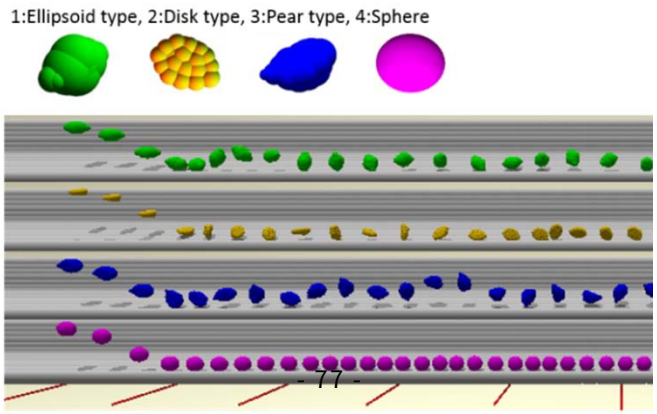
This symposium will cover the following research topics, all of which are based on the perspective of a two-phase approach to sediment dynamics, in which the dynamics of water and the solid-particles phases are considered with interphase interactions and momentum transfer.

A. Fundamentals
Physical processes, mathematical formulations and parameterizations, analytical solutions

B. Modelling
Numerical simulation, turbulence modelling

C. Measurements
Experimental techniques in the laboratory, measuring methods in the field

D. Environmental applications
(D1) Sheet flows, highly concentrated flows, Nutrient/contaminants transported by sediments
(D2) Internal flows (erosion around pipelines and hydraulic sluices) and groundwater flows (porous media), Vegetated channels, riverbank restoration, Landslide/debris flows, Breaching processes in dyke-overlap and dyke-break flows, Tsunami with sediment transport



Key Dates:

- ♦ 12 February 2016: abstract submission
- ♦ 15 April 2016: abstract acceptance
- ♦ 17 June 2016: Extended abstract submission
- ♦ 12-14 September 2016: Symposium

Abstract submission:

Abstracts (of between 200 and 1000 words) should be submitted before February 12, 2016. They should provide detailed information on the objectives of the study, the methodology, the main results and major conclusions.

They should also mention the names and affiliations of the authors, as well as e-mail address of the corresponding author.

• All accepted extended abstracts (4-page papers) will be published in the symposium proceedings (CD-ROM).
• The most notable papers presented at the symposium will be selected and the authors will be invited to submit full papers for publication in a special issue of "Advances in Water Resources"

Form and size of the symposium:

- Language: English
- Presentation forms: Oral and posters
- Four plenary key-lectures and a workshop
- Duration: 3 days with plenary and parallel sessions

水工学論文集編集作業について（会議予定）

開催日	会議	会場
2015年7月30日（木）	第一回幹事会・第一回委員会	土木学会講堂
2015年9月30日（水）	論文投稿締切	
2015年10月5日（月）	第一回編集小委員会幹事会	土木学会講堂
2015年10月6日（火）	第二回幹事会・ 第一回編集小委員会	土木学会講堂
2015年10月29日（木）	第1回査読期限	
2015年11月5日（木）	第三回幹事会・ 第二回編集小委員会	調整中
2015年11月30日（月）	修正原稿締切	
2015年12月10日（木）	第二回編集小委員会幹事会	土木学会A会議室
2016年3月14日（月）	第二回委員会	東北工大

編集小委員会委員構成

【委員構成】

✓水工学委員会委員・幹事には，原則，論文集編集小委員会の委員（または委員兼幹事）を依頼.

✓担当分野は，「水文（11.6）」，「流砂（11.7）」，「河川水理（13.3）」，「河川環境（13.7）」，「湖沼とダム（7.1）」，「沿岸（5.3）」（括弧内は昨年度一委員あたり平均査読数）

✓一委員あたり平均査読数を12程度までに抑えられることを目標に，水工学委員外の編集小委員会委員（または委員兼幹事）を部会長推薦で加える.

決算と予算

第59回水工学講演会　収支

収入	著者負担金送料込み@26,900×249編	¥6,698,100
	論文集販売@5,000×106冊（事前+当日）	¥530,000
	論文集送料	¥53,100
	参加費@3,000×223人	¥669,000
	広告	¥56,700
	製品展示	¥0
収入合計		¥8,006,900
支出	1. 会場関係費（会場使用料）	¥0
	2. 会場関係費（PC プロジェクター等の備品）	¥0
	3. 特別講演講師への謝金，旅費	¥33,410
	4. 編集委員会費（旅費、お弁当）	¥925,610
	5. 論文投稿、査読システム運用費	¥1,933,254
	5は印刷　ポスター・プログラム印刷を含む	
	7. 論文集事前発送宅急便代	¥233,662
	8. 宣 伝 費　a（ポスターデザイン料）	¥30,000
	9.　〃　b（DM発送費等）	¥136,280
	10. 事務局関係（職員出張費等）	¥0
	11. 学生アルバイト	¥700,000
	12. 通信経費・連絡費	¥0
	13. その他　a（J-Stageアップロード（上論指定業者））	¥148,500
	14.　〃　b（期間中の委員会、部会お弁当代）	¥264,108
	15.　〃　c（事務用品・資料印刷）	¥0
	16.　〃　d（会場案内看板）	¥60,642
	17. 定期購読買上（出版部門）	¥0
	18. 参加券作成	¥0
	19. 管理費（30%）	¥2,402,070
支出合計		¥6,867,536
収支差額		¥1,139,364

第60回水工学講演会　予算案

収入	著者負担金送料込み@26,900×250件	¥6,725,000
	論文集販売@5,000×100冊（事前+当日）	¥500,000
	論文集送料@900×70部+450	¥63,450
	参加費@3000×200人	¥600,000
	広告	¥50,000
	製品展示	¥0
収入合計		¥7,938,450
支出	1. 会場関係費（会場使用料）	¥200,000
	2. 会場関係費（PC プロジェクター等の備品）	¥100,000
	3. 特別講演講師への謝金，旅費	¥100,000
	4. 編集委員会費（旅費、お弁当）	¥1,406,915
	5. 論文投稿、査読システム運用費	¥2,000,000
	5は印刷　ポスター・プログラム印刷を含む	
	7. 論文集事前発送宅急便代	¥250,000
	8. 宣 伝 費　a（ポスターデザイン料）	¥30,000
	9.　〃　b（DM発送費等）	¥140,000
	10. 事務局関係（職員出張費等）	¥150,000
	11. 学生アルバイト	¥500,000
	12. 通信経費・連絡費	¥20,000
	13. その他　a（J-Stageアップロード（上論指定業者））	¥200,000
	14.　〃　b（期間中の委員会、部会お弁当代）	¥300,000
	15.　〃　c（事務用品）	¥50,000
	16.　〃　d（会場案内看板）	¥50,000
	17. 定期購読買上（出版部門）	¥0
	18. 参加券作成	¥60,000
	19. 管理費（30%）	¥2,381,535
支出合計		¥7,938,450
収支差額		¥0

申し送り事項，今後の検討事項等

【本年度中に対応】

① 国際セッション，国際セッション賞，キーノートレクチャーの今後について

② 土木学会著作権規定への対応

③ 査読キーワードの修正

【次年度以降の対応を念頭に議論を開始】

① 水工学論文集のフォーマットについて（通常号と統一するか？XML対応）

② 投稿論文数減少の原因と対策

【参考】これまでのキーノートレクチャー一覧

	講　師	題　目	分　野
50回	山田　正	New Trend and Application of Runoff Analysis	水文
	辻本哲郎	Hydraulics-Ecology Cooperative Research on River Ecosystem	河川環境
	石川忠晴	Plannning and Management of Field Experiments in Environmental Hydraulics	環境
	立川康人	Flood Predictions in Japan and PUB, Predictions in Ungauged Basins	水文
51回	砂田憲吾	Water Related Issues in the Asian River Basins	水文
	道奥康治	Nutrient-Sediment Loads from Forest Catchments and Their Influence on Lake and Reservoir Eutrophication	湖沼・ダム
	清水康行	Numerical Modelling of Microscale and Mesoscale Bedforms under Unsteady Discharge	流砂
	田中　仁	Hydro- and Morpho- Dynamics at River entrances	河口水理
52回	椎葉充晴	Kinematic Wave Flow Models for River Basin Runoff Simulation	水文
	藤田裕一郎	A View on River Channel Process and Sediment Transport as One of Conventional Yet Current Subjects in Hydraulc Engineering	流砂
	戸田圭一	Urban Flood Analysis Considering Underground Space	氾濫水理
	藤田正治	Several Important Issues from Field and Model Investigations on Landslides	土砂生産

53回	長谷川和義	Channel Morphology of Mountain Streams and Inhabitation of Masu Salmon	流砂
	天野邦彦	Practical Environmental Simulation Models for Lakes and Reservoirs, Their Development and Needs	湖沼・ダム
54回	小尻利治	PROGRESSIVE WATER RESOURCES MANAGEMENT BASED ON SYSTEMATIC APPROACHES	水文
	清水義彦	FORESTATION IN GRAVEL-BED RIVERS AND AN ATTEMPT OF ITS CONTOROLLING	河川環境
55回	中川　一	Erosion of Unsaturated River Embankment Due to Overtopping Water	河川防災
	関根正人	Recent Progress of Sediment Transport Research And Prediction of Bed Deformation	流砂
56回	小松利光	“DISASTER IMMUNITY” – A NEW CONCEPT FOR ADAPTATION TO DISASTER HAZARD INTENSIFICATION	防災
	田中規夫	EFFECTIVENESS AND LIMITATIONS OF COASTAL FOREST IN LARGE TSUNAMI: CONDITIONS OF JAPANESE PINE TREES ON COASTAL SAND DUNES IN TSUNAMI CAUSED BY GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE	防災
57回	福岡捷二	TOWARD INTEGRATED MULTI-SCALE SIMULATIONS OF FLOW AND SEDIMENT TRANSPORT IN RIVERS	流砂
58回	寶馨	Making use of extreme events for scientific analysis	水文
	篠田成郎	STATISTICAL APPROACHES TO ASSESSMENT OF THE WATER ENVIRONMENTAL PROBLEMS IN A RIVER BASIN	河川環境
59回	キーノートなし		

査読キーワードの修正

査読キーワード	投稿数
水文気象プロセス	14
生態水文	4
気候変動とリスク評価	12
降水	17
流出解析	17
水文統計／水文情報	6
雪氷水文	2
地下水・浸透	11
流域管理・洪水リスク管理	13
流域土砂動態	6
流砂	10
河床形態・流路形態	13
河床変動	12
水災害・防災・減災	31
水害・氾濫　⇒　水害・氾濫の水理	22
管路・局所流	6
開水路の水理	17
密度流･噴流･拡散	1
水理現象の数値解析	11
流体力・流体振動・波動	3
観測技術	9
河道・流域の環境・環境評価	17
流域の流出負荷・河川の水質	5
水生生物（藻類，底生動物，魚類など）・魚道	14
河道の植生	7
河道の物理環境	5
湖沼・貯水池の水理と環境	16
沿岸・河口域の水理と環境	11
津波	5